

USER'S GUIDE

WinBook 

SISX/33 486SubNotebook Computer

WinBook 

SISX/33 486SubNotebook Computer

SOTEC

WinBookS

WinBookSC

サブノートブック コンピュータ

ユーザーズガイド

株式会社ソーテック

日付 1994年9月8日

目次

はじめる前に	2
<i>WinBook</i> の標準機能	3
<i>WinBook</i> に含まれるもの	4
■ ハードウェア	4
■ ソフトウェア	5
■ 書類関連	5
■ 取り扱い上の注意	6
さあ、はじめましょう	8
本ガイドに出てくる単語の字体の意味	9
システムソフトウェア	10
■ MS-DOS	10
■ Microsoft Windows	10
困った時には	12
チャプタ 1 第一段階	13
コンピュータの開け閉め	14
<i>WinBook</i> 各部の外観説明	16
■ 左前から	16
■ 後ろ右から	19
■ 底面から	20
■ 周辺装置への接続部	21
電源	23
マイクロコンピュータシステムについて	24
マイクロトラックボール	25
■ マイクロトラックボールの使い方	26
■ マイクロトラックボールのクリーニング	26
コンピュータをスタートさせる	28
■ ここで必要なもの	28
■ コンピュータをスタートさせる	28

目次

■ コンピュータの電源を入れる	29
■ 内部カレンダー、時計を設定する	30
コンピュータをリセットする	32
チャプタ 2 ディスクドライブ	33
ハードディスクドライブ	34
フロッピーディスクドライブ	35
■ 3.5 インチ外付フロッピーディスクドライブユニットの機能	35
■ 3.5 インチ外付フロッピーディスクドライブユニットの接続方法	35
■ フロッピーディスクの取り扱い方	36
■ データ書き込みを禁止する	37
■ フロッピーディスクのFDDへの出し入れ	38
■ 3モードFDDの使用法	39
チャプタ 3 キーボード	40
キーボードの各部	41
■ ファンクションキー (F1...F12)	41
■ 文字入力キー	41
■ カーサキー	41
■ その他のキー	42
キーボードを使う	43
■ 編集する	43
■ シフトキーなど	44
■ トグルキーのなかま	45
■ ファンクションキー	46
■ エスケープキー	46
エンベデッドキーを使う	47
システムファンクションキー (システム制御キー)	48
■ システムコンフィグレーション	48
■ パワーマネージメント	48

目次

■ クロックスピードの選択	48
■ LCD両面白黒反転	49
日本語入力	50
■ 文字をタイプするには	50
■ かな入力のしかた	51
■ ローマ字入力のしかた	53
■ 漢字を入力する	54
■ コード入力モード	54
チャプタ 4 電源	55
ACアダプタの仕様	56
■ ACアダプタを接続する	56
バッテリーで動作させる	57
■ 充電LED	57
■ バッテリーパックの充電モード	57
■ バッテリーの放電の状態を知る	58
■ バッテリーのパワーを節約する	58
■ サスペンド・レジューム機能を使う	58
■ バッテリーを交換する（バッテリーパック）	59
チャプタ 5 システムコンフィグレーション	61
システムコンフィグレーションについて	62
システムコンフィグレーションをスタートさせる	63
パワーマネジメントメニューをスタートさせる	71
チャプタ 6 オプションデバイスを装着する	77
拡張RAMモジュール	78
■ 拡張RAMモジュールを装着する	78
外部キーボード	81
■ 外部キーボードを接続する	81
外部CRTモニタ	82

目次

■ CRTモニタを接続する	82
ICカード (PCMCIAカード)	83
■ PCMCIAについて	83
■ PCMCIAカードの装着	83
■ PCMCIAカードの取り外し	84
■ ソフトウェアドライバインストール	85
チャプタ 7 故障かな?と思ったら	86
トラブルとその対策	87
■ 電源スイッチを入れても動かない	87
■ 画面に何も表示されない、または、見にくい	87
■ HDDから立ち上がらない	87
■ フロッピーディスクの内容が読み書きできない	88
■ 押したキーと違う文字が表示される	88
■ カーソルが動かず画面が移動する	88
■ いきなり画面が消えた	89
■ 印刷出来ない	89
■ 外部マウスが動作しない	89
■ ビープ音が鳴っている	89
■ 表示される日付や時刻が正しくない	90
■ 充電表示用LEDが点灯しない	90
■ サスペンド/レジュームできない	90
チャプタ 8 こんなことをしたい	91
システム全体	92
■ スピーカから音が出ないようにしたい	92
■ サスペンド・レジューム機能を使いたい	92
■ サスペンド・レジューム機能を使いたくない	92
■ CPUのスピードを遅くしたい (一時的)	93
■ CPUのスピードを遅くしたい (スタート時いつも)	93

目次

■ 時刻・日付を修正したい	93
画面関連	94
■ LCD表示の反転をしたい	94
■ CRTとの同時表示をしたくない	94
Appendix A システムの仕様	95
Appendix B ユーティリティとドライバソフト	96
ディスプレイ関連	97
■ 表示切り替えプログラム	97
■ Windowsディスプレイドライバのインストール	97
ICカード関連	98
■ CardSoftインストール	98
パワーセーブ関連	99
■ POWER. EXE	99
■ APM	99
■ PMEXT. SYS	99
Appendix C システムメモリマップ	101
Appendix D システムI/Oマップ	102

重要なお知らせ

このユーザズガイドに含まれる情報は事前にお知らせすることなしに変更される場合があります。
※製品ならびにソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響についてはいっさい責任を負いかねますのでご了承ください。
本製品およびソフトウェアの仕様は予告なしに変更することがあります。

著作権についてのお知らせ

本ガイドのすべての内容は著作権によって保護されています。本書の内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

Copyright (C) 1994 株式会社ソーテック

神奈川県横浜市中区太田町4-5-5

横浜駅東口ビル

本ガイドにおいて説明されている各ソフトウェアはライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびそのマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約にもとづき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。それ以外の場合は当該ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

Microsoft®MS-DOS®Version 6.2/Vは、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下MS-DOSと省略します。

Microsoft®Windows™Version 3.1は、米国マイクロソフト社の登録商標です。以下

Microsoft®Windows又はWindowsと省略します。

SystemSoftは米国システムソフト社の登録商標です。

Maximizer, Any Key Release, CARDSOFTは、米国システムソフト社の登録商標です。

PS/2は米国IBM社の登録商標です。

PCMCIAは米国PCMCIA社の商標です。

シエンハンストイダ65Xは米国インテル社の登録商標です。以下486SXと省略します。

はじめる前に

ソーテック *WinBook* コンピュータをお買い上げいただきまことにありがとうございます。ソーテック *WinBook* コンピュータはデスクトップコンピュータに匹敵する機能をBサイズの中に凝縮したコンパクトで多機能なノートブックコンピュータです。

このガイドはソーテック *WinBook* コンピュータをどのように使い、維持するのについて説明しています。コンピュータをご使用になる前にどうぞ最初のセクションを注意深くお読みください。このセクションの終わりにはこのガイドの残りの部分でカバーしている各項目についてあなたの経験の程度に応じてどのように進めばよいかを説明しています。

このセクションでは、...

- *WinBook* の標準機能
- *WinBook* システムに含まれているもの
- 取り扱い上の注意
- さあ、はじめましょう
- ガイドの使い方
- 困った時には

WinBookの標準機能

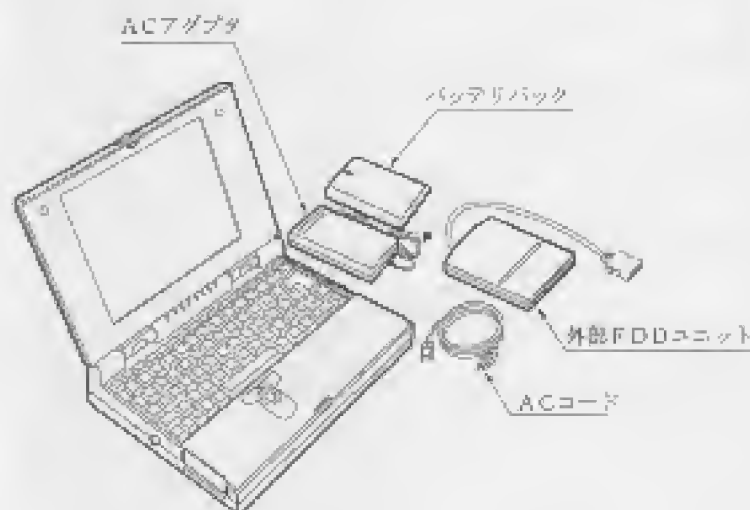
- 486SXマイクロプロセッサ搭載
- 内蔵RAMは標準4MB
- 64階調の9.4インチ白黒LCD又は256色DSTN9.4インチカラーLCD採用
- LEDによる各種動作モード表示
- マルチ周波数モニタなどを接続時に、より高解像度のWindow表示がCRT上に可能
- 3モード3.5インチ外付フロッピーディスクドライブユニット標準添付
- マイクロトラックポータ
- ACアダプタ、ACケーブル
- 200MB又は280MBハードディスクドライブ搭載
- 拡張RAMモジュールスロット
- 2枚のICカード用スロット

WinBookに含まれるもの

■ハードウェア

WinBookノートブックコンピュータを構成するために以下のようなハードウェアとアクセサリーが含まれています。

- WinBookコンピュータ本体
- 取り外し可能なハードディスクユニット（本体に装着されています。）
- 取り外し可能なバッテリーパック（本体に装着されています。）
- 2.5インチ外付フロッピーディスクドライブユニット
- ACアダプタ電源とACコード
- 保証書
- ユーザー登録カード
- テックサポートEAXシート



チャプタ1ではこれらの品々の簡単な使い方について説明しています。チャプタ2、3そして4に進めばさらに詳しいコンピュータの各部についての説明を知ることができます。

■ソフトウェア

- リファレンスディスク

ICカードを使用するため、又はLCDの表示を見易くするためや、CRTの高解像度表示をサポートするための小さなユーティリティが用意されています。Windowsインストールバージョンではこれらはすでにハードディスクにインストールされています。使用方法はAPPENDIX Bに記述してあります。

- MS-DOS、オペレーティングシステム (HDDへインストールバージョン済)

このプログラムにより、基本的なコンピュータの操作つまり、情報をディスクに書きたり新しいディスクを使用出来るよう準備することなどを行うことができます。MS-DOSはまたあなたが購入するであろう他のプログラムを実行させる機能を持ちます。その他のオペレーティングシステムをコンピュータに組み込まない限り、コンピュータをスタートさせる度にいつもMS-DOSを使用することになります。

- マイクロソフトWindows (HDDへインストールバージョン済)

グラフィカル・ユーザインターフェース。これはDOSのもとで動作し、各種の用途に使用されます。マイクロソフトWindows (以下Windowsと略します) により、アプリケーションの操作や、起動が簡単になり、同時にいくつかのアプリケーションをおらせることが出来るとともにディスク上のファイルの構成を管理することができます。

■書類関連

添付されているガイドにはソーテックWinBookコンピュータをスタートさせ、基本的な使い方を知るために必要な情報が含まれています。

- WinBookユーザーズガイド (このガイドです。)

このコンピュータの起動方法、平入れ、おもな部品やユーティリティについて説明しています。またオペレーティングシステムの主な使い方についても説明しています。

- MS-DOSユーザーズガイド

MS-DOSの初歩的動作、コマンド、環境について説明しています。(おもなDOSの機能についてはこのセクションの終りに説明しています。)

- マイクロソフトWindowsユーザーズガイド

基礎から高度な使い方について説明しています。Windowsのアプリケーションを使う前に、このガイドの基礎の項目を読まれることは大変良いことと言えます。なぜならWindowsに対する操作はWindowsのアプリケーションの操作にも多くの共通点が存在するからです。(このセクションの終りにWindowsの主な機能について説明しています。)

■取り扱い上の注意

WinBookシステムは高品質の材料から組み立てられています。しかしながら、大きなシステムにくらべて小形軽量のこのシステムはよく持ち運ばれて使用されることと思います。この点からみてデータが失われたりシステムがダメージを受けたりしないよう、以下に説明する各項目についてとくに注意を払ってください。

- コンピュータを落下させないでください。また重いものをコンピュータの上にのせないでください。
- どうしても必要であるとき以外は、コンピュータの動作中、特にハードディスクやフロッピーディスクが動作中にはコンピュータを移動させないでください。また電源オフ直後10秒程度も移動させないでください。（ハードディスクが完全停止するまで）
- ACアダプタを使用しているとき、電圧が100V-240Vの範囲であることをおたしかめください。このことは海外に持ち運んで使用したときに特に重要な項目です。電圧電圧がこの範囲を越えている場合にはけってACアダプタを差し込まないでください。
- コネクタ類をつけたり、はずしたりするときにはその前にコンピュータの電源をオフしてください。
- 直射日光の当たるところで長時間コンピュータを使用しないでください。高湿度の場所（20-80%相対湿度）やほこりの多い場所または濡れた手でコンピュータを使用しないでください。
- 新素材の入ったものや日の荒い布などで、ディスプレイの表面を拭かないでください。
- 振動を発生するもの、磁界を発生するもの、有機溶剤、腐蝕性のガスの近くにコンピュータをおかないでください。排気出来る温度の範囲は-10度から60度までです。
- ACアダプタはソーテックWinBookコンピュータ以外には使用しないでください。
- ACアダプタのケースは分解しないでください。このACアダプタは故障したり、故障したときに修理するため分解することはできません。
- ACアダプタのコードを持って引っ張らないでください。ACアダプタを接続するときにはケーブルのプラグを持って行ってください。
- ACアダプタを温度、湿度の大きく異なるところにさらさないでください。
- ACアダプタをはこりや水気のあるところにおかないでください。また腐蝕性ガスのあるところつまり、有機溶剤などのあるところにおかないでください。
- ACアダプタを熱の発生する物のそばにおかないでください。また直射日光のあたる場所に放置しないでください。
- ACアダプタをなげたり、落としたりしないでください。また上に何ものせないでください。
- もし、ACアダプタから何かこげるような臭いがしたり、ACアダプタの表面が高温熱いときには直ちにACコードを抜いてください。

LCD (液晶ディスプレイ) の表面についてごみを取り除く場合にはやわらかい布を使って、注意深く拭いてください。最寄りのコンピュータショップには画面を拭くために専用につられた布が販売されていますので、これを利用することもできます。

フロッピーディスクを削除する場合には市販されている、3.5 インチタイプの薄式のクリーニングディスクをお求めのうえ行ってください。

以下のソーテックの部品は定期的に交換していただく必要があります。

- 充電式バッテリーパック。 充電を行うことができなくなったときに交換します。(チャプタ4 に詳しい説明があります。)
- リチウムバッテリー。 このバッテリーは内部の時計、カレンダーに電源を供給しています。 コンピュータの電源をオフさせたあと、CMOSバッテリーエラーが次の電源オン時に表示されるようになったら、お求めの代理店に電池を交換するようご指示ください。

警告

専用のバッテリーパック以外のものをコンピュータを動作させるために使用すると電池が破裂するなどの危険があります。ソーテックの保証するWinBook専用バッテリーパックをお求めの上交換してください。

さあ、はじめましょう

WinBookに付属してくる各ガイドにはコンピュータをセットアップし、操作するために必要なすべての情報が含まれています。このガイドのチャプタ1ではWinBookを初めて使用する場合にどのようにしたらよいかを以下の各ステップにて説明しています。

1 システムを構成する各部に慣れる

チャプタ1は、コンピュータの各部がどのように操作されるべきかを知る必要のある概要を含んでいます。

2 バッテリパックをコンピュータに組み込む

WinBookコンピュータはAC電源またはバッテリ電源のいずれでも動作させることができます。製品出荷時、バッテリパックは充電された状態ではありません。

3 システムの時刻と日付を設定する

チャプタ1の終りにシステムの時刻と日付を設定する方法を説明しています。

これらのステップをへて、アプリケーションソフトウェアをシステムへインストールする準備が整います。

以下の表は始めるときにどこに説明があるかを知るための手掛かりとなります。あなたが経験のあるユーザの場合でも、Xマークのついている項目（経験者向け）は確認していただけるようお願い致します。

作業項目	説明の場所	経験者のかたは
基本的なシステムの構成製品の概要	チャプタ1	
バッテリパックの装着	チャプタ1	X
コンピュータの起動とセットアップ	チャプタ1	X
データ格納メディアの取り換え	チャプタ2	
キーボードを使う	チャプタ3	X
バッテリーを使う	チャプタ4	X
追加オプションを装着する	チャプタ6	X

本ガイドに出てくる単語の字体の意味

diskcopy	この字体で書かれている文字は示されているとおりにキーボードからタイプされなければなりません。 常に指示がなければ大文字、小文字の区別はありません。 どちらでも使用することができます。
System Configuration	この字体で書かれた文字はコンピュータの画面に表示されているものであることを示します。
< >	この括弧でくくられた文字列はその文字の示すようなキー操作を示します。 たとえば<Enter>は”Enter”と印字されたキーを押すことを示します。
<Ctrl> <Alt> <Fn>	キーボードのキーはこの字体で記述されています。 複数のキーを組み合わせて押す時には”でつなげています。 この例では”Ctrl”と印字されたキーと”と印字されたキーを同時に押す”ことを意味しています。

システムソフトウェア

WinBookシステムのMS-DOS、Windowsのどちらも詳細に説明されたマニュアルが別に添付されています。ここではこれらのソフトウェアについて簡単な理解を得られるような概要を説明しています。

■MS-DOS

MS-DOS (またはMicrosoft Disk Operating System、一般的にDOSと呼ばれています。) はコンピュータの電源をオンさせる度に通常スタートさせるプログラムです。このオペレーティングシステムはその外のすべてのプログラム (Windowsを含みます。) のためにコンピュータと直接した基本的な機能を管理するものです。

もしあるアプリケーションがあるデータをハードディスクもしくはフロッピーディスクから読み込む必要がでた場合、また画面に文字 (テキスト) やグラフィックを表示したいとき、MS-DOSがその目的に使用されます。

また、MS-DOSを直接使用することもできます。数十種のコマンドを“DOSプロンプト” (一般的にC:\>) においてあなたはタイプすることができます。ほとんどのコマンドはハードディスクあるいはフロッピーディスクに対してなにかを行う命令です。以下のようなことができます。

- ディスクの内容を表示させる。
- ディスクのファイルを管理する。 (コピー、消去、名前変更)
- システムのメモリを管理する。

もし、Windowsのアプリケーションのみを使用するなら、DOSのコマンドを直接触る機会は大変少ないでしょう。DOSのアプリケーションを使用する場合でもそれらのアプリケーションをスタートさせること以外にDOSコマンドをタイプすることは少ないでしょう。またアプリケーションのなかで、それら自身があなたのデータを保存したり、コピーしたりするのに使われることがあります。

さらに詳しいことを知りたい場合にはMS-DOSのマニュアルをご覧ください。

■Microsoft Windows

WindowsはDOSのもとで動作します。これは一般的なアプリケーションプログラムではなく、オペレーティングエンバイロメント (操作環境) といわれるものになります。Windowsの目的はアプリケーションを使うのをより簡単にすることにあります。またDOSにはないいくつかの機能を提供します。

Windowsにおいてコンピュータの画面は“デスクトップ (机の上)”と呼ばれます。Windowsの名前はデスクトップ上で使用されるファイルやプログラムを含む、四角い領域または窓 (ウインドウ) から由来しています。

それぞれのプログラムや、ファイルはデスクトップ上に“アイコン”と呼ばれるもので表現されます。マウスを使って各種の操作をアイコンに対して行うことができます。(Windowsではマウスの代わりにキーボードによる操作を行うこともできますが、その効率や、操作感はいい

ものではありません。Windowsを使いこなすにはマウスか、トラックボールが必ず必要です。たとえば、アプリケーションのアイコンにマウスのポインタ（矢印）を移動させ、マウスボタンを2回押す（ダブル・クリック）ことは、そのアプリケーションをスタートさせることを意味します。

あなたは同時に1つ以上のアプリケーションをそれぞれのウィンドウにおいて実行させることができます。最初はそれぞれのアプリケーションウィンドウは画面（つまりデスクトップ）いっぱいに広がっています。一番上についているものだけが見ることができます。しかし、あなたはこれらを小さくしたり、整列させたりすることができます。いちどきに1つのウィンドウをアクティブにすることができます。しかしその他にも単純にクリックさせることでうつることができます。

ファイルも他のアプリケーションの如くそれ自身のウィンドウにてオープンさせることができます。

その他のWindowsの特徴として、すべてのアプリケーションの基本的操作方法はすべて共通していることがあげられます。このことは1つのアプリケーションについてどのように作業するか習得すればその他にもまた適用することが出来るということを意味しています。おなじ理由で、Windowsのアプリケーションを走らせるまえにWindowsの基本を習得しておくことがもっとも良いことであるといえます。

Windowsのさらに詳しい内容を知りたい場合は、ソーテック **WinBook** パッケージに付属するマニュアルを参照してください。

困った時には

このガイドを参照しても、ソーテック WinBook コンピュータに関する問題が解決しない場合には以下のテクニカルサポートセンターにお問い合わせください。

電話番号：045-661-7558

株式会社ソーテック テクニカルサポートセンター

毎日 月曜日から金曜日の午前10時から午後4時まで（祝祭日をのぞきます。）

この番号にかける前に以下の項目を準備されているか確認してください。

- どの代理店から購入されましたか？
- コンピュータのシリアル番号（製造番号）これはコンピュータの底面に貼りつけてある、ラベルに印刷してあります。
- 問題の出来るだけ詳しい内容
- コンピュータそのもの

その他の方法として、その問題の説明をこの製品に付属するテクニカルサポートFAXシート記入用紙に記入いただき、以下の番号にてFAXで送付いただく方法もあります。

FAX番号：045-662-0558

株式会社ソーテック テクニカルサポートセンター

また書面の郵送または物品の送付の宛て先は以下のところへお願いいたします。

なお、ご発送の際には必ず購入時と同じ梱包（梱包箱、パッキン）にてご返送願います。

郵便番号 231
神奈川県横浜市中区太田町4-56
横浜島車道ビル
株式会社ソーテック テクニカルサポートセンター

注意

HDDを修理する場合はドライブのみの修理若しくは交換となります。
記憶されているアプリケーション、データ等の保証、復元はいたしかねますので重要なものについては必ずコピーをとるようお願いいたします。

チャプタ 1 第一段階

このチャプタでは

- コンピュータの開け閉め
- 部品の接続、電源とマイクローセッサシステム
- マイクローラックボールのクリーニング
- コンピュータの起動
- 日付、時刻の設定
- コンピュータのリセット
- コンピュータのオフ

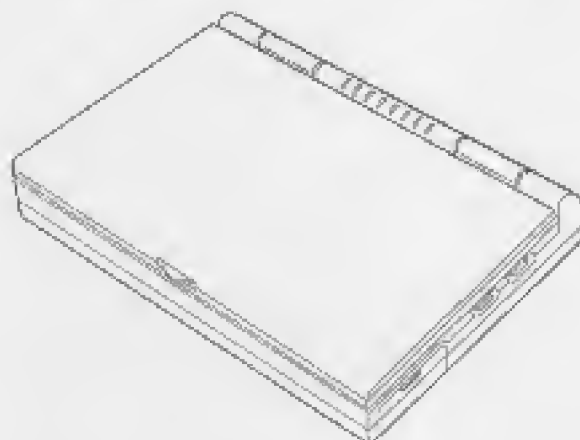
このチャプタはノートブック **WinBook** コンピュータの基本的構成品とどのようにプリンタや外部モニタのような周辺装置を接続するかについて説明しています。このチャプタの最後ではまず最初に必ず行わなければならない、いくつかの特別な段階の操作方法を含めたコンピュータのスタート方法について説明しています。

もし、その他のコンピュータを使ったことがある場合はたぶんこのチャプタのいくつかの項目は飛ばしたくなるでしょう。しかし、システムの構成品、起動、システムコンフィギュレーションの方法については一度目を通して置いてください。

コンピュータの開け閉め

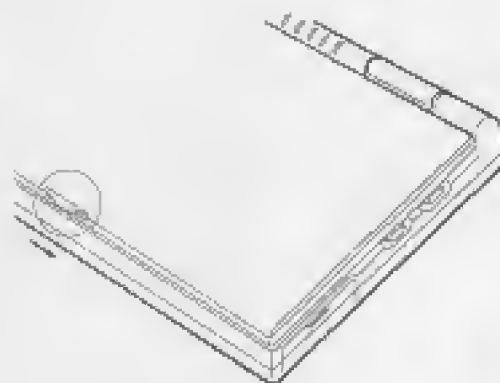
もし以前の項目で説明した注意点をお読みになっていない場合はこの先に進む前にどうぞ注意点をお読みになってください。

コンピュータを開けるには以下の絵のようにコンピュータをおいてください。



ここにはコンピュータの前面にスライド装置があります。

1. コンピュータの右に向かってスライド装置（イラストに示すように）をスライドさせます。



- 2 カバーをLCD画面の見やすい角度まで開きます。最大180度開けることができます。

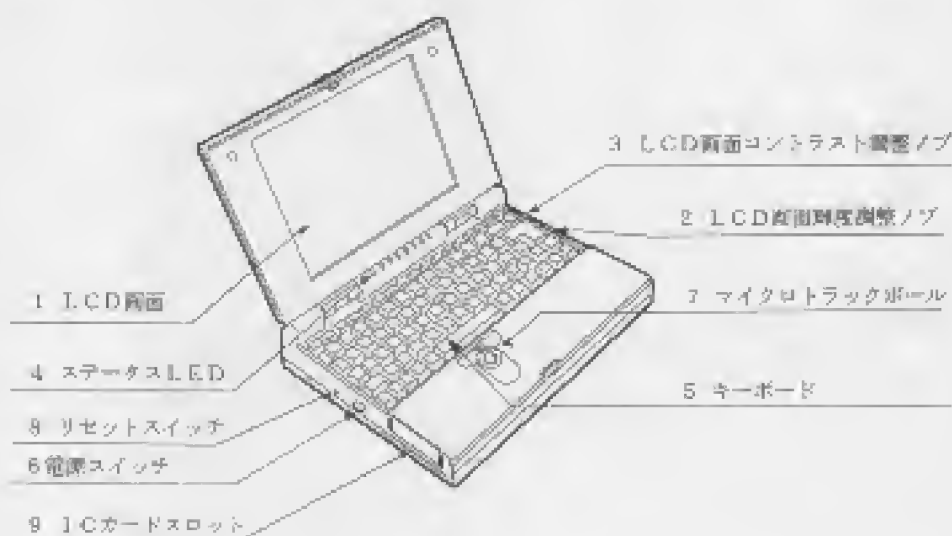


コンピュータを開じるには単純にカバーをもとの位置にもどし、ラッチがかかるまで、やさしく押してやります。(もしカバーを開じるときにコンピュータがオンの状態だったときはコンピュータは、後で説明するサスペンド状態に入ります。作業を続ける場合はカバーを開け、向のキーを押してやります。)

WinBook各部の外観説明

コンピュータの制御やその構成品についての説明が以下の各ページに記されています。

■左前から



1 LCD画面

LCD画面はLCDの背後にある照明により照らされ、コンピュータの使用中は通常点灯しています。電池の使用時間を引き伸ばすために指定した整分のあいだコンピュータが使用状態にないとき、自動的に照明装置を切ることができます。何かキーを押せばもとの使用出来る状態に戻ります。(チャプターの“システムコンフィグレーション”の項目を併せてお読みください。)

2 LCD画面の輝度調整ノブ

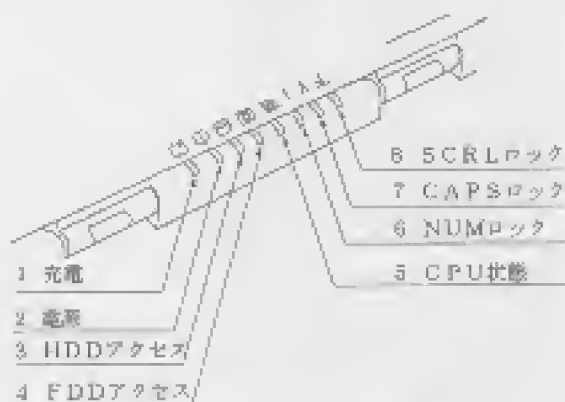
LCD画面の明るさを調整するために使用します。見やすい明るさに調整してください。ただし、明るくすればするほど電池を消耗します。

3 LCD画面のコントラスト調整ノブ

LCDのコントラストを調整するために使用します。見やすいコントラストに調整してください。

4 ステータスLED

ここに並ぶ数個のLED（発光ダイオード）はMinBookの動作状態を示すために設けられています。



各LEDにはシンボルマークが刻印されています。各シンボルマークは以下の表のような対応となっています。それぞれのLEDの意味はこのあと説明されています。

	充電状態
	電源状態
	HDD状態
	FDD状態
	CPU状態
	NUMロック状態
	CAPSロック状態
	SCRLロック状態

D 充電LED

このLEDは現在の電池の充電の状態について表示を行います。

電池が充電中はオレンジ色に点滅します。

電池が満充電になると、オレンジ色に点灯します。

充電中になんらかの異常が発生してそれ以上充電が継続できなくなった場合は消灯します。また電池のみでACアダプタから給電されていないときも消灯しています。

2) 電源LED

コンピュータの電源がバッテリーのみで使用時にオン状態にあると、緑色に点灯します。バッテリー使用時にバッテリーパックの残量が少なくなると、オレンジ色に点灯変化します。ACアダプタ入力が接続されている場合、黄色に点灯します。システムがサスペンド状態にあるとLEDはその時の電源条件の色にて点滅します。

3) HDDアクセス

HDDの使用中にこのLEDが緑色に点灯します。

警告

このLEDが点灯中にコンピュータの電源をオフにしてはいけません。

4) FDDアクセス

FDDの使用中にこのLEDがオレンジ色に点灯します。

5) CPU状態表示

CPUのスピードに応じてLEDの色が変化します。緑色に点灯しているとCPUは通常のスピードで動作しています。パワーセーブ機能あるいはCPUスピードをLOWスピードに設定すると、黄色に点灯します。

6) NUMロック

NUMロック状態にあると、このLEDが点灯します。エンベデッドキーボード部分がこの状態で、使えるようになります。（チャプタ3も併せてお読みください。）

7) CAPSロック

CAPSロック状態にあることを示します。このとき、アルファベットキーはシフトキーを押さずに大文字を入力することができます。

8) SCRLロック

SCRLロック状態にあることを示します。このモードにおける使い方はアプリケーションプログラムによって異なります。

5 キーボード

キーボードに関してはチャプタ3にある説明をお読みください。

6 電源スイッチ

このボタンを押すことで、コンピュータの電源をオンオフさせることができます。

警告

HDD（ハードディスク）や（FDD）フロッピーディスクを使用中に電源をオフにしたり、コンピュータを動かしたりしないでください。電源をオフにした後、再び電源を投入する場合は15秒以上まってください。

7 マイクとトラックボール

マイクロトラックボール（以下MTBと省略します。）はマウス装置の代わりにプログラムのなかで活用することができます。詳しい使い方についてはこのチャプタの後半をお読みください。

8 リセットスイッチ

システムをリセットする場合にこのチャプタの後半で説明しているようにこのボタンを押します。この動作により、あなたが使用しているすべてのどんなプログラムもデータをセーブすることなしに終了し、システムはDの5を再ブートします。一般的にシステムが「ハング（凍結してしまう）」状態のときか、キーボードからの入力に対して反応しなくなってしまったときにはのみ使用します。

9 ICカードスロット

このICカードスロットにPCMCIA規格準拠のICカードを装着して使用することができます。PCMCIAカードを使用するときにはソケットサービス、カードサービスを始めとするプログラムをインストールする必要があります。詳しくはチャプタ8の説明をお読みください。

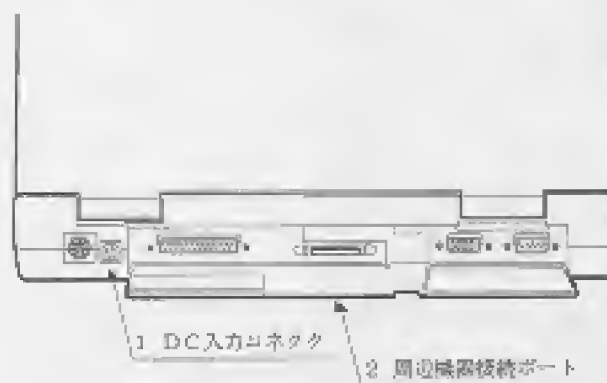
■後ろ右から

1 DC入力コネクタ

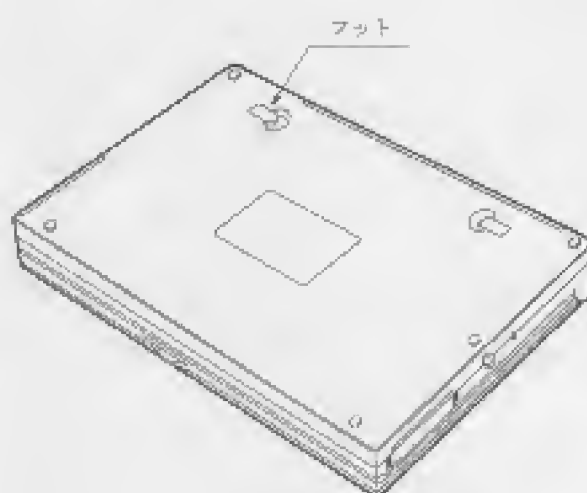
ACアダプタをここに接続します。

2 周辺機器接続ポート

周辺機器を接続する各ポートがこのふたの中にあります。ふたを開けてください。



■底面から



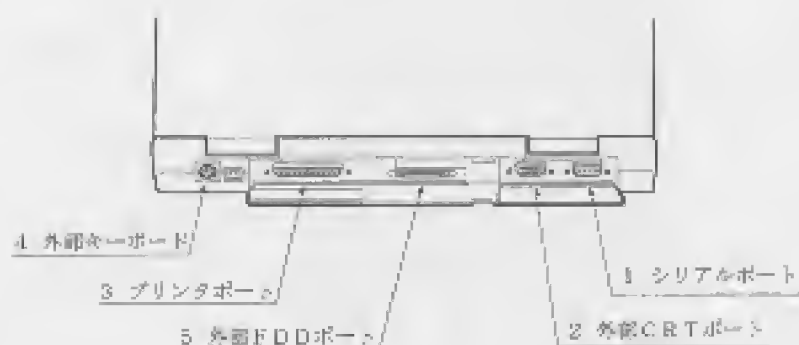
1. フット

コンピュータ本体に傾斜を付けキーボード入力しやすく又LCDを見やすくします。

■周辺装置への接続部

周辺機器の接続方法についてはチャプタ5をお読みください。各ポートにはシンボルマークが刻まれています。各シンボルマークの意味は以下に示すとおりです。

	シリアルポート
	外部CRTポート
	プリンタポート
	外部キーボード・マウスポート
	外部FDDポート



1 シリアルポート

シリアル接続のケーブルを藉由して、外部モデムなどのシリアル周辺機器を接続します。このポート (COM PORT A) は通常では "COM1" (アプリケーションが指定するシリアルデバイス番号のこと) に設定されていますが、チャプタ5で説明するようにシステムコンフィグレーションにてCOM1からCOM4まで設定することができます。

2 外部CRTポート

外部CRTを接続します。

3 プリンタポート

パラレルプリンタをプリンタケーブルを藉由して接続することができます。このポートは通常では "LPT1" (シリアルポートと同様なポートの設定番号) に設定されていますが必要が

あればチャプタ5で説明するようにシステムコンフィグレーションにてLPT1からLPT3まで設定することができます。

4 外部キーボード・マウスポート

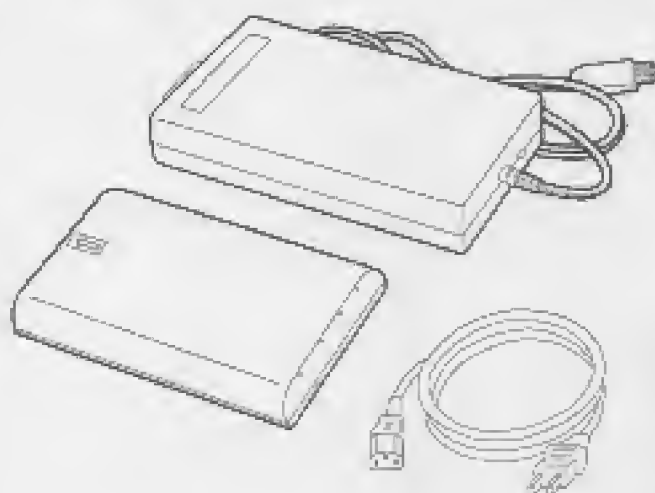
外部用PS/2キーボードを接続することができます。また別途市販のキーボード・マウスアダプクを使用すればPS/2マウスを接続することもできます。チャプタ6の説明を参照してください。

5 外部FDDポート

WinBookは標準添付している、5インチ外付フロッピーディスク（FDD）を接続できます。そのため、アプリケーションのインストールやデータの出し入れ等にて3.5インチFDDを使う場合はこのポートに3.5インチ外付フロッピーディスクユニットを接続してください。

電源

ソーテック **WinBook** コンピュータは、専用 AC アダプタまたは、充電可能なバッテリーパックによって動作します。



コンピュータがオフ状態で、ACアダプタが装着されてから、約1.5時間で、バッテリーパックは満充電の状態になります。

ACアダプタとバッテリーパックの使用方法の詳細な内容はマニュアルをお読み下さい。

WinBook コンピュータはこのほか内部にリチウム電池を装着しています。この電池は

WinBook の時計、カレンダーとシステムコンフィグレーション内容を保持するために使用されています。

マイクロコンピュータシステムについて

ソーテック *WinBook* コンピュータは、80486SX マイクロプロセッサを搭載しています。クロック速度は選択できます。遅いクロックは電池の使用時間をより長くするために選択することができます。

システムコンフィグレーションプログラムにより、CPU のクロックスピードを変更することができます。"Boot Speed" の項目を選択し、上下カーサ移動キーを押すことで、FAST (速い) または SLOW (遅い) を設定することができます。

また、一時的にクロックスピードをシステムコンフィグレーションを使用することなしに選択することもできます。単に F n > = < T n を押してください。(クロックスピードはシステムコンフィグレーションで設定していたクロックスピードに対してもう一つの速度に変化します。)

マイクロトラックボール

ソーテック *PinBook* コンピュータはマイクロトラックボール（以下MTBと省略します）を装備しています。

マウスを使用するプログラムの場合には、画面上のポインタを希望の位置に移動するよう、MTBのボールを上下左右にまわしてください。MTBのボールの左右のボタンはマウスの左右のボタンにそれぞれ相当します。

トラックボールはどちらかの手の親指で操作します。好みによってどちらかの中指、人差し指で操作することもできます。マウスの場合と同様に、ポインタを動かしたい方向にトラックボールを動かします。

トラックボール（マウス）の使いかたについてはそれぞれのアプリケーションプログラムのガイドを参照してください。

■マイクロトラックボールの使い方

下図のようにいずれかの指にてボール及びクリックボタンを操作いたします。トラックボールはデフォルトのシステムコンフィグレーション時には常にコンピュータに認識されています。



MTBはマイクロソフトのシリアルマウスと互換性があります。外部キーボードポートにキーボード・マウスアダプタを經由してPS/2マウスを接続する場合、または外部シリアルポートにマウスを別途接続する場合はシステムコンフィグレーションプログラムを呼び出してCOM Port又はDisableにしてください。チャプタ6の説明をお読みください。

ノート

MTBはマイクロソフトシリアルマウスに互換性があります。

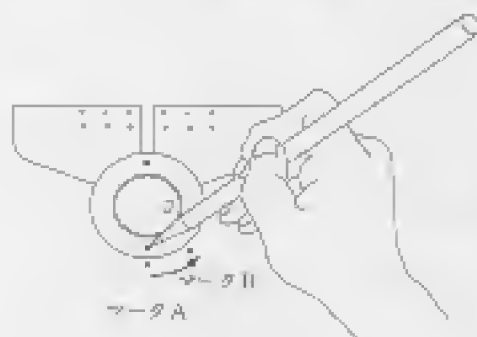
WinBookの第2シリアルポートに内部的に接続されています。このMTB専用ポート (COM PORT B) はシステムコンフィグレーションプログラム (チャプタ6をお読みください。) で、時に必要の無い限り、COM1かCOM2 (デフォルト) にセットしておいてください。COM3、COM4またはDISABLEに設定しておくと、マウスドライバがMTBを認識できなくなります。逆にMTB以外のシリアルマウスなどを接続する場合は必要に応じてシステムコンフィグレーションにてDISABLE (禁止) することもできます。

■マイクロトラックボールのクリーニング

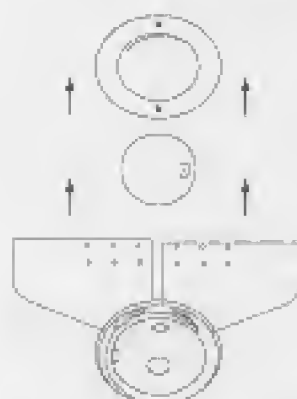
WinBookのMTBも他のトラックボールやマウスと同様に長時間使用しているとボールの受動部が汚れてきます。その場合のクリーニング方法について説明します。

- WinBookの電源をオフにします。

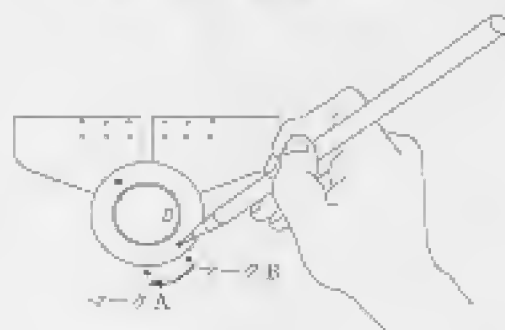
- MTBのボールカバーをボールペンの先端にて回転回みをマークAからマークBに回転移動します。



- ボールカバーとボールが外れますのでMTB内部の受動部を綿棒等にて傷つけないようにクリーニングします。



- 組み立てる場合は、まずボールをセットしてその上からボールカバーを被せ回転回みをマークBからマークAへクリック感があるまで回転移動させます。



コンピュータをスタートさせる

コンピュータをオンする前に周辺機器をすべて接続しておかなければなりません。周辺機器の解説についてはチャプタ6の説明をお読み下さい。

このセクションでは以下の段階を知ることができます。

- ソーテック **WinBook** コンピュータを最初に使用する時
- 内部時計、カレンダーの時刻、日付を設定する時

■ここで必要なもの

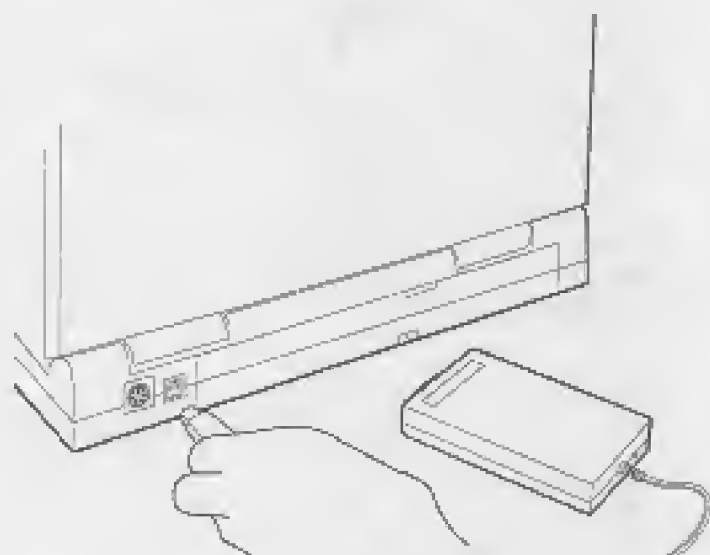
- ソーテック **WinBook** ノートブックコンピュータ
- 専用ACアダプタ
- 付属のACコード

■コンピュータをスタートさせる

ACアダプタを接続します。


コンピュータの出荷時にはバッテリーパックは空の状態になっています。ですからコンピュータをスタートさせるときにはACアダプタを用いる必要があります。(バッテリーパックについての詳しい内容はチャプタ4の説明をお読みください。)

ACアダプタのケーブルをコンピュータの後ろにある、DC INコネクタに差し込みます。ACコードの一端をACアダプタに差し込み、もう一端をコンセントに差し込みます。(100Vから240V単相の交流)

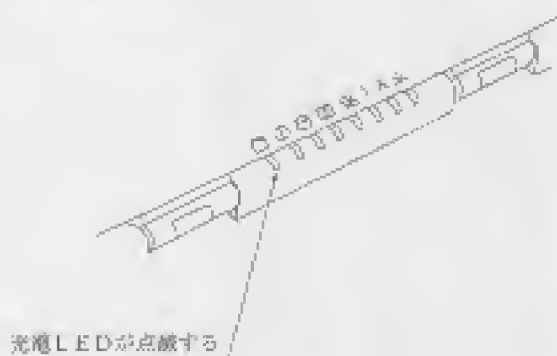


■コンピュータの電源を入れる

もし、まだコンピュータを開けていなければコンピュータのカバーの前面にある、突起をコンピュータの前面に向かってスライドさせながらカバーを持ち上げ開いてください。

もし、バッテリーパックがコンピュータにすでに装着されている場合はコンピュータの中央の  のLEDがオレンジ色に点滅するはずですが、これが点滅していることはつまり、バッテリーパックが装着され、充電が行われていることを示します。（チャプタ4の充電の項目も併せてお読みください。）

コンピュータ本体の左側面にある電源SWを押して、はなします。（同じ動作で、コンピュータの電源をオフさせることができます。）



警告

ハードディスクまたはフロッピーディスクドライブがアクセス中である時には絶対に電源をオフさせないでください。電源をオフしたあとは少なくとも15秒以上再度オンさせるまで、お待ちください。

数秒後、システムは自己診断機能を自動的に走らせ、その結果を画面に表示します。その後システムは“DOSプロンプト”を画面に表示させた状態になります。プロンプトについて表示され、点滅しているシンボルは“カーソル”とよばれ、あなたのタイプする文字がつぎにそこに表示されることを示しています。

C:\>

もし必要なら、キーボード右側にあるノブを回してコントラストと輝度を見やすいように調整してください。

■内部カレンダー、時計を設定する

ソーテックWinBookコンピュータは内部に時計、カレンダー機能を持ち、常時これが時を刻んでいます。この情報はデータファイルを作成したり、変更したときやそのほかに利用されます。一番最初にコンピュータをスタートさせたときには日付・時刻は合っていません。日付・時刻を設定するにはDOSコマンドのDATEとTIMEを使用してください。（システムコンフィグレーションにて日付・時刻を合わせることもできますが、DOSコマンドを使用したほうがより簡単です。）

以下の各ステップは内部時計・カレンダーを設定する方法を示しています。DOSプロンプトにてはじめてください。

- 1) DATEとタイプして<Enter>を押してください。

現在の日付が表示され、あなたが新しい日付をタイプするのを待っています。

—英語DOS—

Current date is 01-01-1993

Enter new date (mm-dd-yy):_

—日本語DOS—

現在の日付は 1993-06-13 (日) です。

新しい日付を入力してください。(yy-mm-dd):

もし正しい日付が表示されている場合には<Enter>を押して、本コマンドを終了させてDOSプロンプトに戻します。もしシステムの日付を変更するなら、

- 2) 現在の日付をタイプして<Enter>を押します。

月、日付には1または2ケタの数字を、年には西暦下2ケタの数字をタイプしてください。それぞれの間にはハイフンをタイプしてください。

- 3) TIMEとタイプして<Enter>を押してください。

現在の時刻が表示され、あなたが新しい時刻をタイプするのを待っています。

←英語DOS→

Current time is 11:23:02

Enter new time:

←日本語DOS→

現在の時刻は 13:29:05.06

新しい時刻を入力してください。

もし正しい時刻が表示されている場合には<Enter>を押して、本コマンドを終了させてDOSプロンプトに戻します。もしシステムの時刻を変更するなら、

- 4) 現在の時刻をタイプして<Enter>を押します。

時間、分、秒をそれぞれ2ケタの数字でコロン「:」で区切りながらタイプしてください。
(24時間表記)

コンピュータをリセットする

もしコンピュータが全く何の反応も示さなくなってしまう時にはシステムの電源をオフにし、再度オンにする代わりにリセットをかけることができます。リセット操作はそのかわり、システムがサスペンド状態にある時もまとめて全てのRAMの一時的な記憶をすべて消去します。ですから重要なデータはあらかじめディスクにセーブしておくことをおすすめします。

MS-DOSにおいてはあなたはキーボードの<Ctrl>と同時に<C>を押す。または<Break>を押すことにより、プログラムの実行を中止し、MS-DOSのコマンドプロンプトに戻ることができます。エラーがおきてしまった場合、リセットをかける前にこの方法を一度試してみてください。

警告

リセットによる以外のいかなる方法によってもプログラムから抜け出すことができない場合をのぞいてリセットをかけないでください。一部のプログラムは新しいデータをセーブする場合、正規の方法でプログラムを終了させなければならないプログラムがあります。このようなプログラムを使用していてリセットをかけた場合はデータの消失につながる場合があります。

キーボードからコンピュータをリセットする場合は、<Ctrl>+<Alt>+の各キーを同時に押して下さい。

もし、キーボードが反応しない場合にはリセットボタンを押してください。まちがえてリセットが働かないように、このスイッチは意識的に押しにくいように設計されています。このスイッチを押す場合にはボールペンの先かタリップをまっすぐにした硬いもので押して下さい。リセットをかけると画面は一時的に表示が断え、その後コンピュータはMS-DOSを再びロードします。(ハードディスクまたはフロッピーディスクドライブにMS-DOSが書き込まれている場合)

チャプタ 2 ディスクドライブ

ソーテック WinBook コンピュータには2つのディスクドライブが装着されています。

- 2. 5 インチハードディスクドライブ
- 3. 5 インチ外付フロッピーディスクドライブユニット

このチャプタでは

- ハードディスクドライブの平入れと取り扱い方
- フロッピーディスクドライブユニットの平入れと取り扱い方
- フロッピーディスクの取り扱い方

ハードディスクドライブ

ソーテック *WinBook* コンピュータ（インストールバージョン）に装着されているハードディスクドライブは工場組立時にすぐに使用出来るように、イパーディションとフォーマット処理がされています。またYDOSと名付けられたサブディレクトリが作成され、DOSのファイル類がすでにコピーされています。

警告

WinBook 本体にはハードディスクドライブが内蔵されていますので投げたり、落したりしてはいけません。また振動や、磁界の発生するもの（テレビやステレオのスピーカなど）の近くにおかないでください。

WinBook のハードディスクドライブはユーザーは触れることができません。もし不具合と考えられることがある場合には当社テクニカルサポートセンターにご相談ください。

フロッピーディスクドライブ

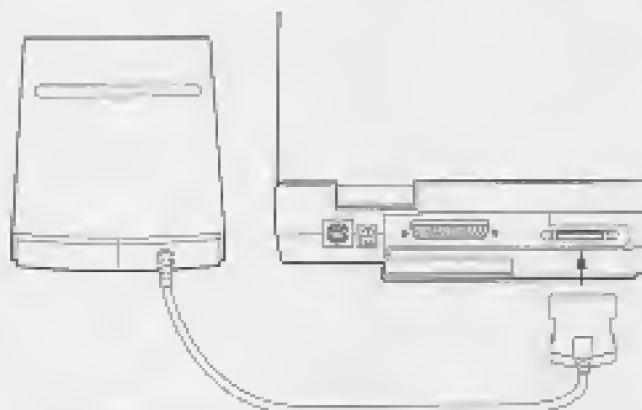
■ 3. 5 インチ外付フロッピーディスクドライブユニットの機能

WinBook本体に添付されている、5 インチ外付フロッピーディスクドライブユニットは3モード(720KB/1.2MB/1.44MB)にて動作します。詳しい使用方法につきましてはMS-DOS 6.2/Vのユーザーズガイドをご参照ください。

■ 3. 5 インチ外付フロッピーディスクドライブユニットの接続方法

3. 5 インチ外付フロッピーディスクドライブユニットを接続する場合は、WinBookの電源がOFFであることを確認してから下図のように3. 5 インチ外付フロッピーディスクユニットをWinBookの外付FDDポートに接続してください。

次にシステムコンフィグレーションを変更する必要があります。WinBookの電源をONにして自己診断テストモードが終了してから<Ctrl>+<Alt>+<Sys>を押してシステムコンフィグレーションモードにしてください。そこでStandardのDiskette Driveのところでは的の容量値を選択してください。詳しくはチャプタ5をご参照ください。



3. 5 インチ外付フロッピーディスクドライブユニットを取り外す場合もまたWinBookの電源がOFFであることを確認してください。同時にシステムコンフィグレーションのStandardのDiskette Driveの設定を「None」にしてください。

注意

3. 5 インチ外付フロッピーディスクドライブユニットの脱着のためにシステムコンフィグレーションの変更が必要になりますので注意してください。

3. 5インチ外付フロッピーディスクドライブユニットとシステムコンフィグレーションの状態にてWinBookは下表のような動作になりますのでご参照ください。




ユニット状態	コンフィグレーション	WinBookの動作
接続	接続	FDDは問題なく使用できます。また立上時特別なメッセージは出てきません。
離脱	接続	下のようなメッセージが一時的に現れて消えますがHDD上での動作には問題ありません。もしFDDの使用をご希望であれば外部FDDポートにしっかりとる、5インチ外付FDDを接続してください。FDDが不要であればシステムコンフィグレーションの設定を変更されることをお奨めいたします。 メッセージ WARNING - NO BOOTABLE FLOPPY DRIVE IS INSTALLED WARNING - FLOPPY INFORMATION INVALID - RUN SCU
接続	離脱	下のようなメッセージが現れシステムは持ち状態になります。もしFDDの使用をご希望であればシステムコンフィグレーションを設定しなおしてください。FDDが不要であれば3. 5インチ外付FDDを外部FDDポートからリリースして再度立上直すことをお奨めいたします。この状態のまま使用した場合のデータの読み書きに関する保証はできません。 メッセージ WARNING - FLOPPY INFORMATION INVALID - RUN SCU <<CTRL-ALT-S>>to enter System Configuration Utility, Press F1 to continue
離脱	離脱	FDDは使えません。HDDを使用することは問題ありません。立上時特別なメッセージも出てきません。

■フロッピーディスクの取り扱い方

3. 5インチフロッピーディスクは大変弱いものです。取り扱いにあたっては十分注意を払ってください。装着してあるフロッピーディスクを使用しつづける場合でも、コンピュータの電源をオフする時には必ずその前に3. 5インチフロッピーディスクドライブ（以下FDDと省略）のイジェクトボタンを押してフロッピーディスクを取り出し、保存に適切な場所へ保管して下さい。以下に示すのはフロッピーディスクの取り扱いについての注意事項です。

テレビや、電機モータのような電磁気を発生する物のそばにおかないでください。

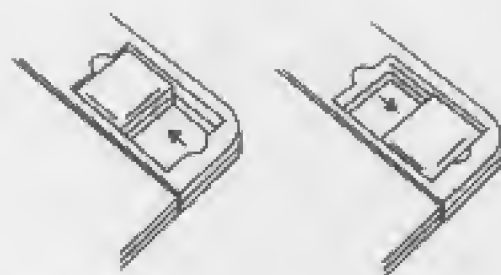


特に夏の中のような直射日光にあてたり、高温の場所におかないでください。湿度の高いところにおかないでください。	
内部の記録メディアに傷を付けるおそれがあるためシャックを開けないでください。	
ラベルを貼りつける場合にはその専用のエリアにお貼りください。（一般へこんでいます。）また、別のラベルをはるときには重ねてはらず、まえのラベルをはがして下さい。	

■データ書き込みを禁止する

通常、FDDに装着されているフロッピーディスクはデータの書き込みも、読み出しも出来るようになっています。もし、あなたがそのフロッピーディスクのデータを上書きあるいは消去したくないならば、あなたはそのフロッピーディスクを、書き込み禁止にすることができます。（ライトプロテクトする）

それを行うにはフロッピーディスクの裏側を上にします。（フロッピーディスクの中心に金属の円盤が見える方が裏側です。）一方のカドに下図のようなプラスチックの移動させることの出発点ノッチがあります。

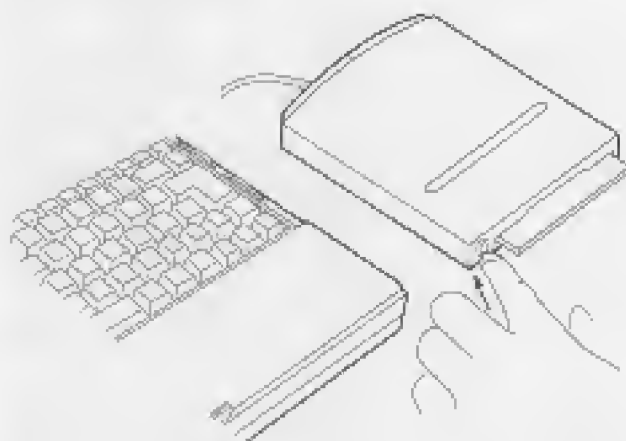


書き込み禁止ノッチが“上向き”になっているとき（上図の左がその状態）は、フロッピーディスクをフォーマットしたり、書き込んだり、その上のファイルを消去することができます。

書き込み禁止ノッチが「下側」になっている（四角い穴が開いている状態）と、フロッピーディスクのデータを消去したり、上書きしたり、どんなデータも追加することは、ふたたび書き込み禁止ノッチを上側にもとさない限りできません。

■フロッピーディスクのFDDへの出し入れ

フロッピーディスクを装着する場合は、ラベル面を上側にし、シヤックのある方をさきにFDDの中に挿入します。フロッピーディスクを正しく装着できた場合は、FDDイジェクトボタンが飛び出します。フロッピーディスクを取り出すときにはFDDイジェクトボタンを押して、フロッピーディスクを取り出します。



■3モードFDDの使用方法

515X/33Liと515X/33CiはMicrosoftのMS-DOS®Version 6.2/Vの3モード対応ユーティリティ(1024FD)をサポートしております。

汎用的なDOS/V機にて使用可能なフォーマット720KBと1.44MBに加えて1.2MBフォーマットのフロッピーディスクの読み書きを可能にします。

515X/33Liと515X/33Ciを3モード対応にするには2通りの方法があります。

1 CONFIG.SYSに組み込む方法

CONFIG.SYSに下の1行を追加します。

```
DEVICE=C:\DOS\1024FD.EXE
```

2 MS-DOSプロンプト上にて組み込む方法

DOSプロンプト状態にて下記のコマンドを入力します。

```
1024FD<Enter>
```

注意

1024FDユーティリティは1.2MBのフォーマットディスクのリード/ライトのみをサポートするもので、フロッピーディスクのフォーマットは行えません。又、フロッピーディスクからの起動も行えません。

注意

1024FDが組み込まれている状態の時WindowsのDOSプロンプトモードにてどのFDDコマンドを使用する場合には、バリエーション/Vは使用しないでください。Windowsが異常動作して、FDDデータが破壊されたり、実行中のアプリケーションが強制終了される可能性があります。

チャプタ 3 キーボード

ソールブック *WinBook* とコミュニケーションするためにこのキーボードは大切な役割をはたします。

このキーボードは拡張日本語キーボード (106 キー) と互換性を持っています。このチャプタではこのキーボードを使いこなすための方法を説明します。

このチャプタでは

- キーボードの各部
- キーボードを使う
- エンベデッドキーを使う
- システムファンクションキー (システムの機能活用のための特別キー組み合わせ)
- 日本語入力

キーボードの各部

以下の図はソーアック WinBook コンピュータのキーボードをあらわしています。



およそ、以下の各部分がそれぞれ説明のように機能します。

■ファンクションキー (F1, . . . F12)

各プログラムにより、これらのキーはファイルをコピー、コードしたり、オンラインヘルプを画面に表示させたり、プログラムを終了させたりするためのキーとして定義されます。DOSにおけるこれらのキーの機能は（その他にプログラムを動作させていない状態で、）MS-DOSのマニュアルに説明されています。

■文字入力キー

これらはまた、英数字またはカナ数字キー（アルファニューメリックキー）ともよばれます。これらのキーは、このチャプタで説明する使い方をのぞき、ちょうどタイプライターと同じ使い方をします。

■カーサキー

カーサはタイプする文字が次に表示される場所を示す、画面上の小さなシンボルです。DOSとDOSのアプリケーションにおいてはそれは通常点線する下線（アンダーライン）です。Windows、またそのアプリケーションにおいてはそれは一般的に“カーソル”と呼ばれ、それはたての線として表示されます。アプリケーションプログラムはカーサキー（またはマウス）を使用してファイルの中身を画面に表示し、処理を行いたい場所を指定するのに使用されます。

■その他のキー

幾つかのその他の機能キーが存在し、このチャプタの中で説明されています。

このチャプタの終わりにシステムの機能について説明を行っています。このセクションではマイクロプロセッサのスピードの変更や、システムコンフィグレーションをよびだす。その他についてのキー組み合わせ（キーコンビネーション）を一覧にしています。

キーボードを使う

多くのキーのその機能は今使用している、アプリケーションプログラムによって変わってきます。このセクションではほとんどのMS-DOSマシンドで共通であり、また一般的なアプリケーションプログラムでも適用する使い方を解説しています。このキーボードはDOS/V上でのキー操作に対応しています。

日本語入力に関する詳しい内容は「日本語入力」の項目をお読みください。

■編集する

編集に使用するキー群は一般的なワープロ、タイプライターでの使い方と共通です。

文字入力キー群

文字と数字をタイプするのにこれらのタイプライタキーを使用します。しかしながら、文字“l”と数字“1”は混同しないように注意してください。また文字“o”と数字“0”も同様に混同しないように注意してください。コンピュータはこれらの文字と数字は“違うもの”として区別します。間違えて入力するとコンピュータの処理結果として期待とちがったものになります。



〈スペースバー〉キーを押すことにより、現在のカーサのある場所にスペースを挿入し、カーサを1スペース分右に移動します。



通常は〈Tab〉キーを押すことにより、カーサを次のTabストップまで移動させます。一部のプログラムでは、Tabキーを押すことにより、画面上の次の項目に移動するように、使われることもあります。〈Shift〉+〈Tab〉によってカーサを一つまえのTabストップに移動させることもできる場合があります。



この〈Enter〉キーを押すことによる動作は各アプリケーションにより異なります。いくつかの場合ではこのキーはちょうどタイプライターのキャリッジリターンと同じ動作をします。つまり、カーサは一行下にさがり、画面の一番左に移動します。その他のケー

スでは、<Enter>はコンピュータで動作しているプログラムの動作を決定させるように使われます。例えばEnterにより、新しい画面を表示させたり、書類をプリンタに出力したり、などです。



ほとんどのプログラムで、Backspace（バックスペース）キーはカーサを1スペース分左にうごかし、その場所にあった文字を消去します。



（デリート）キーはふつうはカーサのあるところの文字を消去または右側の文字を消去し、右側の残りの文字列を左に移動させます。



使っているアプリケーションプログラムがカーサ移動機能を持っている場合、ソフトウェアWinBookのキーボードはカーサを動かすために2つの方法を提供しています。

- 右下にある、4つのカーサ移動キーを使う。
- <PgUp>+<PgUp>、<PgDn>、<Home>、<End>にて移動する。

（多くのアプリケーションプログラムはまたカーサを移動させるためにマウスまたはマイクロトラックボールを使うこともできるようになっています。）

各キーはそのキーに印刷されている矢印の方向に画面上のカーサを移動させるのに使います。ほとんどのアプリケーションにおいてこれらのキーを用いてカーサを移動させても画面の内容は変化しません。

また<Fn>+カーサキーにて画面のページ切り替えのキーの機能として使用することができます。それぞれのキーの前面に四角で囲んであるように機能します。

■シフトキーなど



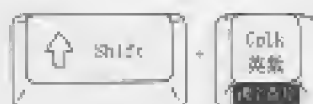
これらのキーはその他のキーと組み合わせて使用されます。ほとんどのアプリケーションではこれらのキー単体を押しても何の動作もできません。こういったキーとして<Shift>（シフト）、<Ctrl>（コントロール）、<Alt>（オルタネート、オルトとも言います。）、<Fn>（エフエスキー、ファンクションキー（F1からF12）と区別するためこのように言います。）があります。使用する場合はその他のキーと共に押す際にします。たとえば<Ctrl>+<C>を入力する場合は、<Ctrl>を押しながら<C>のキーを押してやります。

ほとんどのプログラムでは、英数モードにて<Shift>はちょうどタイプライタのシフトキーと同じ使い方をします。つまり、大文字を入力したいときにはその文字のキーと共に<Shift>を押します。しかしながら、CAPSロックの状態にあるときには<Shift>と共に文字キーを押すと小文字が入力されます。また四角で囲まれたキー<NumLk>、<ScrLk>、<Home>、<End>、<PgUp>、<PgDn>は<Fn>と組み合わせることで機能させます。

またフルキーボード（105キー）の右コントロールキーは<Fn>+<Ctrl>にて入力できます。

■トグルキーのなかま

トグルキーと呼ばれるこれらのキーはそのキーを一回押すことにより、それぞれのキーも持つ2つの状態を切り替えることができます。キーをもう一度押すことにより、また元の状態にもどります。ステータスLEDは3つの標準トグルキーの現在の状態を表示してくれています。各LEDが点灯しているときはその状態が有効になっていることを示します。また日本語入力特有のトグルキーについては「日本語入力」にて詳しく説明しています。



英数モードにてShiftを使用せずに大文字（A-Z）を入力したいときには<Shift>+<CapLk>を押して下さい。CAPSロックがオンのときに<Shift>を使うと小文字が入力されます。CAPSロックはそのほかのシフト可能な文字に対しては影響を出しません。たとえば\$をCAPSロックがオンの時に押すと4が入力されます。\$は入力されません。



NUMロックをオンにすることによって、エンベデッドニューメリックキーボードを使用できる状態にします。ニューメリックキーボードの使い方についてはこのチャプタの後半にある、「エンベデッドキーボードを使う」の項目をお読みください。



一部のプログラムでは、5行ロックはカーサの制御に関する動作が変わったりします。例え



ば、はカーサを一行下に移動させるのではなく、カーサを動かさずに表示内容を1行分上に移動させるように変化します。



文字をタイプすると、通常はカーサのある場所に文字がインサートされて、その後の文字は右におかれて移動してゆきます。いくつかのプログラムでは「タイプオーバー（上書き）」のモードを提供しています。この場合、タイプされた文字はすでにあるカーサのある文字を書き換えていきます。このようなプログラムの場合、一般的にこのく「Insertionキー」を使ってタイプオーバー（上書き）モードとインサートモードを切り替えることができます。通常はこの場合、インサートモードなのかどうかそれを示すための記号が表示が現われます。

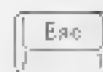
■ファンクションキー



ファンクションキーはキーボードの一番上の行にあります。これらのキーの機能はあなたの使用しているプログラムにより決められます。

MS-DOSでは、例えば<F3>を押すことにより直前にDOSプロンプトであなたがタイプしたコマンドをもう一度表示させることができます。<Enter>を押すことでもう一度このコマンドを実行することができます。(<Backspace>にて消すこともできます。)

■エスケープキー



<Esc>と印刷されているキーは「エスケープ」キーと呼ばれ、それぞれのアプリケーションプログラムに依って色々な目的に使われます。いくつかのプログラムでメニューを表示しているときに<Esc>を押すと現在のメニューを閉じだし、一つ段階の高いメニューに移ることが出来ます。

DOSにおいてはコマンドをタイプしたあとに(<Enter>を押す前に)<Esc>を押せばバックスラッシュ（日本語キーボードでは¥）を表示させてこのコマンドをキャンセルすることができます。ここで<Enter>を押せばDOSプロンプトにもどることができます。

エンベデッドキーを使う

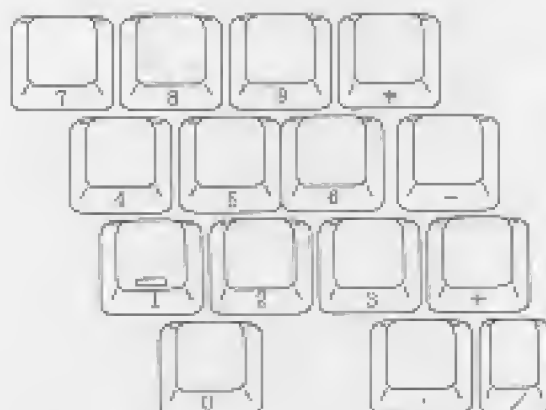


キーボードのなかで、エンベデッドキーパッドの部分は2つのちがった使い方があります。

- 通常の使い方 (J, Kのキーなど)
- 数値キーとして使う (0-9や、一など) ほとんどの場合文字入力キーとしてこれを使う事になるでしょう、けれども書類やスプレッドシートのなかで、たくさんの数値を入れたい場合にはNUMロックモードにしてこのエンベデッドキーを使うことができます。それではそのモードについてに説明します。

数値データの入力

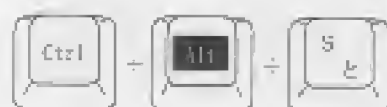
エンベデッドキーパッドを数値キーとして使用することにより、数値データの入力を簡単にすることができます。NUMロックモードにするには<Fn>+<Num>を押します。ステータスLEDのNum LockマークのLEDが点灯する(チャプタ1を参照)ことで、下図の様な数値が入力できることを示しています。



システムファンクションキー（システム制御キー）

ソーナック WinBook コンピュータのキーボードにはいくつかのコンピュータの動作を設定するための重要な機能があります。

■システムコンフィグレーション



<Ctrl> + <Alt> + <S>を押すことで、システムコンフィグレーションプログラムをスタートさせることができます。システムコンフィグレーションプログラムにより、システムの状態を決めるための設定を行うことができます。さらに詳しいことについてはチャプタの「システムコンフィグレーション」の項目をお読みください。

警告

システムコンフィグレーションをスタートさせるとそのあと必ずシステムをリスタートしますので、事前にアプリケーションプログラムではデータをセーブし、プログラムを終了させてください。そうでない場合データの消失を招く場合があります。

■パワーマネジメント



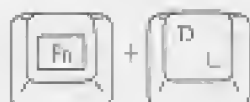
<Fn> + <Esc>を押すことで、バッテリーの使用時間を延長させる為のサスペンド・シールド、スタンバイの機能を設定するパワーマネジメント（PM）メニューを呼び出すことができます。さらに詳しいことについてはチャプタの「システムコンフィグレーション」の項目をお読みください。

■クロックスピードの選択



<Fn>+<F>を押すことでノートブック *WinBook* コンピュータのCPUのスピードを高い速度 (FAST) から低い速度 (SLOW) に切り替えることができます。低い速度にすることでよりバッテリーの消費を抑えることができます。この選択を行うたびにクロックのスピードが切り替わります。

■LCD画面白黒反転



<Fn>+<D>を押すことによりLCDの自乗表示を反転させることができます。白のバックグラウンドに黒の文字の表示と黒のバックグラウンドに白の文字の表示をそれぞれ交互に切り替えます。

日本語入力

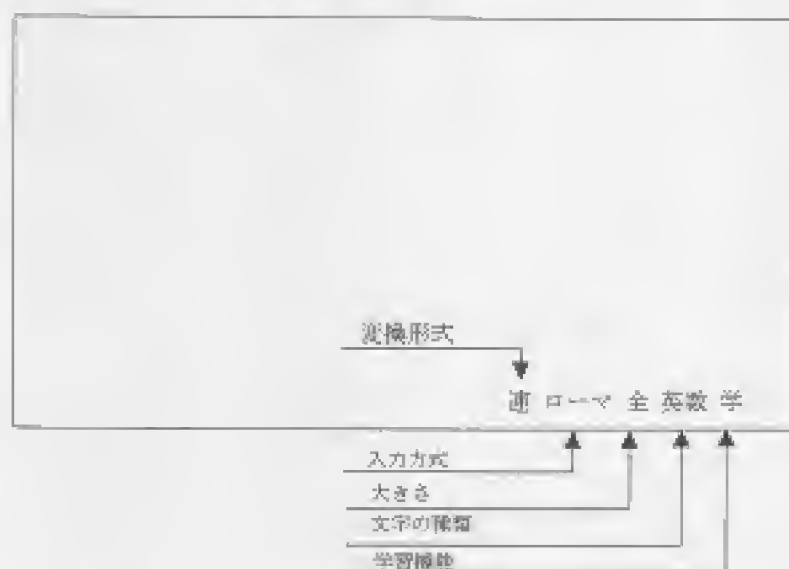
日本語MS-DOS上にて文字各種を入力する方法について説明します。

(Microsoft MS-DOS Version 5.2/V)

- 文字をタイプするには
- ひらがな入力のしかた
- ローマ字の入力のしかた
- 漢字を入力する (単語変換)
- コード入力モード

■文字をタイプするには

ここではひらがな、カタカナ、アルファベット、数字、記号等の入力方法について説明します。
画面の左下に現在の入力モードを表示しています。準備として<Alt>+<漢字>を押し日本語
輸入力モードにしてください。解除する方法も同じです。



1. 文字の種類

入力できる文字の種類は、大きく分けてかな、カタ、英数、の3種類あります。

表示	モード	切替キー (トグル)
かな	ひらがな等の入力モード	<ひらがな>

かな	カタカナ等の入力モード	<Shift>+<カタカナ>
英数	英数等の入力モード	<英数>

2 大きさ

入力できる文字の大きさは半角、全角の2種類あります。

表示	モード	切替キー (トグル)
半	半角入力モード	<半角/全角>
全	全角入力モード	<半角/全角>

半角文字の幅は全角文字の半分です。またひらがなと漢字には「全角」しかありません。半角モードのときでも全角に入力されます。

3 かな入力方式とローマ字入力方式

入力方法は2種類あります。

表示	モード	切替キー (トグル)
ローマ	ローマ字入力モード	<Alt>+<ローマ字>
なし	かな入力モード	<Alt>+<ローマ字>

注意

Windows上でのかな入力方式とローマ字入力方式の切り替えは<Ctrl>+<Shift>+<ひらがな>にて行います。

かな入力は入力する文字のキーをそのまま押します。たとえば「や」を入力したい場合は<や>を押します。

ローマ字入力はローマ字をタイプしながら入力します。たとえば「や」を入力するには<Y>+<ん>の順番で押します。

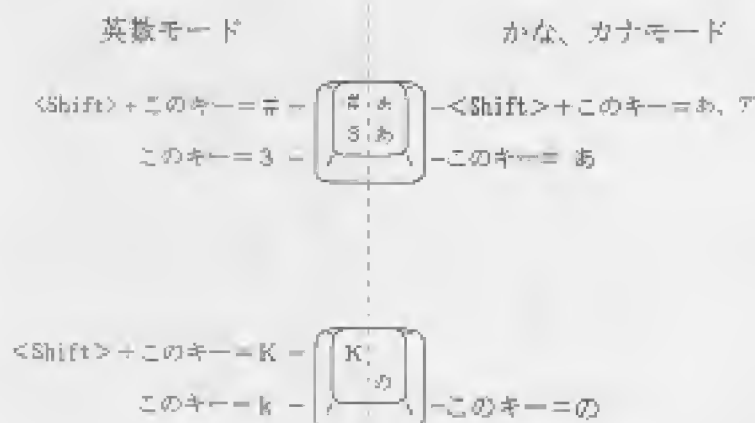
■かな入力のしかた

かな入力はキーに印刷されているかなを直接押すことによりかなを入力します。その基本的な方法を説明いたします。

準備として画面下のモード表示が「かな入力モード」(Rがない状態)を確認します。ローマ字入力モードになっている場合は<Alt>+<ローマ字>にてかな入力モードにします。

基本的にキーの右側の文字はかな、カタモードのときに入力でき、左側の文字は英数モードのときに入力が可能になります。またキーの下側はそのまま、キーの上側は<Shift>を押しながら

ら得ずと入力できます。



1 ひらがな

<ひらがな>を押して、画面下のモード表示を「かな」にして直接そのかなキーを押し入力します。小さなひらがな（あ、い、う、え、お、つ、や、ゆ、よ、を）の場合は<small>ひらがな</small>を押したままそのキーを押します。

2 カタカナ

<Shift> + <カタカナ>を押して、画面下のモード表示を「カナ」にして直接そのかなを押し入力します。小さなカタカナ（ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ、コ）の場合は<small>カタカナ</small>を押したままそのキーを押します。

3 数字

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したい数字キーを押します。

4 アルファベット小文字

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したいアルファベットキーを押します。

5 アルファベット大文字（1文字）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて<Shift>を押しながら入力したいアルファベットキーを押します。

6 アルファベット大文字（連続）

<英数>を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて<Shift>を押しながら<英数>を押すとロックがかかります。そして入力したいアルファベットキーを押します。

7 かな記号（「、」、『、』、ク、マ、・、ミ、モ、等）

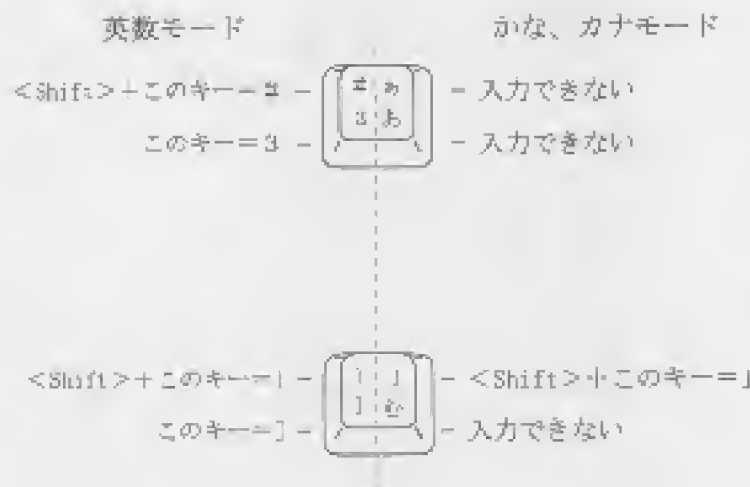
<ひらがな>を押して、画面下のモード表示を「かな」にします。続いて入力したいかな記号キーを押します。

8 英記号 (! , @ , # , \$, % , ^ , & , * , 等)

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したい英数記号キーを押します。

■ローマ字入力のしかた

準備として画面下のモード表示がローマ字入力モード (R が表示されている) を確かめます。かな入力モードになっている場合は＜A 1＞＋＜ローマ字＞にてローマ字入力モードにします。



基本的にキーの左側の文字は英数モードにて有効になり右側はかな記号のみ有効になります。

1 ひらがな

＜ひらがな＞を押して、画面下のモード表示を「かな」にして入力したい文字のローマ字をタイプします (例: 「や」なら＜Y＞＜A＞)。小さなひらがな (あ、い、う、え、お、わ、を、を、よ) の場合はそのローマ字の前に＜x＞をタイプします。 (例: 「や」なら＜X＞＜Y＞＜A＞)

2 カタカナ

＜カタカナ＞を押して、画面下のモード表示を「カナ」にして入力したい文字のローマ字をタイプします (例: 「ヤ」なら＜Y＞＜A＞)。小さなひらがな (ア、イ、ウ、エ、オ、ク、ケ、コ、サ、シ、ス) の場合はそのローマ字の前に＜X＞をタイプします。 (例: 「ヤ」なら＜X＞＜Y＞＜A＞)

3 数字

「かな」、「カナ」、「英数」いずれのモードであっても入力することが可能です。

4 アルファベット小文字

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したいアルファベットキーを押します。

6 アルファベット大文字（1文字）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて＜Shift＞を押しながら入力したいアルファベットキーを押します。

8 アルファベット大文字（連続）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて＜Shift＞を押しながら＜英数＞を押すとロックがかかります。そして入力したいアルファベットキーを押します。

7 かな記号（『、』、ケ、。、・、と、々、等）

＜ひらがな＞を押して、画面下のモード表示を「かな」にします。続いて入力したいかな記号キーを押します。

8 英記号（|、@、#、\$、%、^、&、*、等）

＜英数＞を押して、画面下のモード表示を「英数」にします。続いて入力したい英数記号キーを押します。

■漢字を入力する

Microsoft®MS-DOS®Version 6. 2/Vの添付マニュアル“日本語入力ガイドMS-IME”に入力方法が記載されていますのでご参照願います。

■コード入力モード

Microsoft®MS-DOS®Version 6. 2/Vの添付マニュアル“日本語入力ガイドMS-IME”に入力方法が記載されていますのでご参照願います。

チャプタ 4 電源

ノートブック **WinBook** コンピュータは 100-240V 単相の交流電源から AC アダプタを使って駆動するか、または内蔵の充電式バッテリーパックにより、駆動することができます。このチャプタでは AC アダプタとバッテリー電源についての一部の重要な説明と消費電力の低減 (パワーセーブ) の方法を含め解説しています。" はじめのまゝに" にあらず、各注意などを御理解頂いていないようでしたら、お読みください。

このチャプタでは

- AC アダプタを使う
- バッテリーパックを充電する
- バッテリーパックを使う
- バッテリーパワーを節約する
- バッテリーパックを交換する

注意

S1SX/33L1 の AC アダプタ (S1AD001) は S1SX/33C1 には使用できませんのでご注意ください。尚、S1SX/33C1 の AC アダプタ (SCAD001) は S1SX/33L1 にて使用することは問題ありません。

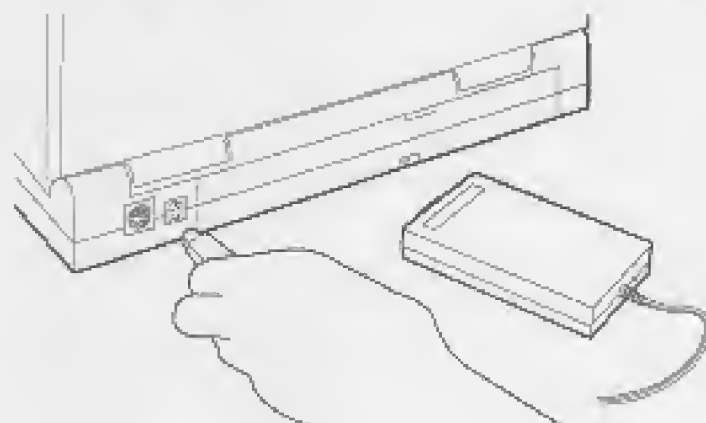
ACアダプタの仕様

入力電圧	100-240ボルト単相 交流 (自動電圧切り替え)
入力電流	0.8-0.2アンペア
周波数	50または60ヘルツ
出力電圧	19ボルト
出力電流	1.0アンペア
動作温度範囲	5-35℃

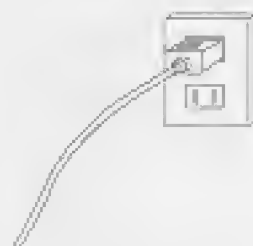
■ACアダプタを接続する

ノートブックWinBookコンピュータに添付されたACアダプタ以外は絶対に使用しないでください。ACアダプタを使ってシステムを動作させる場合には以下のようにします。

- 1) コンピュータの後ろにあるDC-INのコネクタにACアダプタのコードを差し込みます。



- 2) ACコードをACアダプタに接続します。
- 3) ACコードのもう一方をACコンセントに差し込みます。下図をご覧ください。

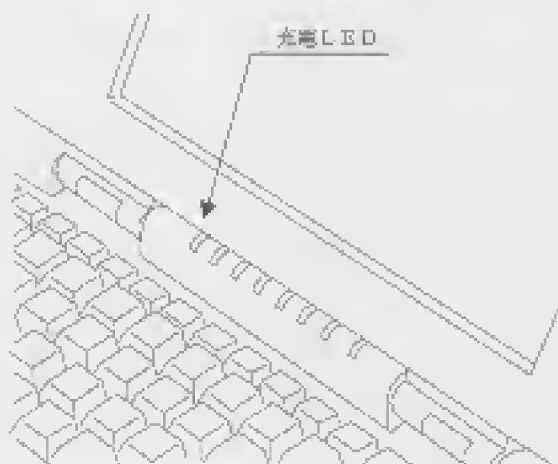


バッテリーで動作させる

システムが起動される時には、内蔵のバッテリーパックは充電されていません。バッテリーでシステムを動作させるときにはその前にバッテリーパックの充電を完全に行ってください。コンピュータの電源をオフの状態にし、A/Cアダプタを接続し、充電LEDが点灯状態になるまで、そのままにしておきます。電池を充電するにはシステムオフの状態です。約1.5時間を要します。（システムオンの状態では、充電はできません。）

■充電LED

LCD画面の下部の真ん中にある、充電LEDは現在のバッテリーパックの状態を示しています。もし完全に充電されていればLEDは点灯しています。点滅していればバッテリーパックは充電中であることを示しています。バッテリーパックが入っていない、またはバッテリーパックが入っていてもA/Cアダプタが接続されていない場合は消灯しています。



LEDの点灯	状態
点滅	バッテリーパックは充電中で完全に充電はされていません。
点灯	バッテリーパックは満充電になっています。
消灯	A/Cアダプタが通電されていない状態です。 またはバッテリーパックが正しく装着されていないか、充電中にそれ以上充電を継続できない状態です（充電に適した温度条件を逸脱しているなど）。

■バッテリーパックの充電モード

ソーテックWinBookコンピュータではバッテリーパックはシステムがパワーオフのとき急速充電を行います。システムがパワーオンの時には充電は行われません。

■バッテリーの残電の状態を知る

バッテリーパックを挿入しているときにそのバッテリーの残電が少なくなった場合（ローバッテリー）、以下の2つの方法でコンピュータが警告を発します。

- 電源LEDが緑からオレンジに変化する。
- 約10秒ごとに“ピッ”という音がする。

バッテリーパックの容量は残り少なくなっていることを示しています。あなたはすぐにコンピュータのデータをセーブし、ACアダプタでシステムをオフにして充電を行うか、バッテリーパックを交換してください。（このチャプタの後半のバッテリーパックの交換の項目をお読みください。）

またパワーマネージメントメニューにおいてBattery Low:の項目がSuspendに設定されている場合、システムはバッテリーの残電が大量少なくなったときに自動的にコンピュータの現在実行中のプログラムを停止し、サスペンド状態に入ります。もしBattery Low:の項目がWarn Only（警告のみ）になっている場合にはバッテリーパックの容量がなくなった時点でシステムは電源が切れてしまいます。

システムの利用を継続される場合にはACアダプタを接続し、バッテリーパックを交換してください。ACアダプタを接続し通電が確認されたのちにキーボードを押すか電源スイッチを押してレジュームさせてください。

警告

ローバッテリーの状態のまま操作を継続すると、操作中のデータの消失あるいはプログラムファイルなどの損失を伴うおそれがあります。

■バッテリーのパワーを節約する

コンピュータの使い方により、バッテリーパックの使用時間は変化します。バッテリーパックの電力を節約するために以下にいくつかのヒントを示します。

- LCDの輝度を暗くする。
- LCDの閉閉も含めてソーアッドWinBookコンピュータの各構成部品を使用しないときには電源を切ってしまう、パワー制御機能を活用する。（チャプタ6に説明されています。）特にグローバルスタンバイモードでは消費電力を極めて少なくすることが可能です。
- このあと説明している、サスペンド・レジュームモードを使用する。

また以下の行為は消費電力の増大を招きます。

- ハードディスクまたはフロッピーディスクをアクセスする。

■サスペンド・レジューム機能を使う

サスペンド・レゾームモードをパワーマネージメントメニューにて選択する（チャプタ5の「システムコンフィグレーション」の項目に説明されています。）ことにより、コンピュータをオフの状態にしてもサスペンド状態に維持させることができます。大変少ない電力で、現在使用中のオペレーティングシステム、アプリケーションをそのままの状態でメモリのなかに保持させていくことができます。コンピュータをオンにすると前にコンピュータをオフの状態にしたときの元の状態に復帰させる事ができます。

コンピュータを長い時間サスペンド状態にしておくことはおすすめできません。なぜなら少量の電力でも長時間放置しておくでバッテリーパックの電力は消費されているからです。

■ バッテリーを交換する（バッテリーパック）

このセクションではどのようにしてソーテック WinBook コンピュータの右側面に装着されているバッテリーパックを交換するかについて説明しています。

警告

このコンピュータ専用のバッテリーパック以外の電池を使用すると、爆発、火災の起るおそれがありますので十分御注意ください。ソーテック純正のソーテック WinBook コンピュータ専用バッテリーパックを御使用下さい。又、バッテリーパックの分解、破壊、火中への投入、加熱、短絡の短絡等は絶対に行わないでください。

★ ACアダプタによるバックアップ

コンピュータが動作している状態（サスペンド中も含みます）ではACアダプタを接続してACアダプタから電源が供給されているときのみ、バッテリーパックを交換することができます。

バッテリーパックを交換する前に電源LEDが黄色に点灯していることをあらかじめお確かめください。緑またはオレンジの状態ではバッテリーパックの交換はできません。もしこの様な場合はコンピュータのデータをディスクセーブするか、ACアダプタをさしこんで、アダプタからの電源供給を行ってください。

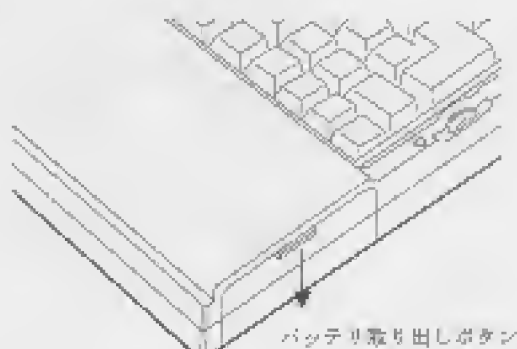
★ サブバッテリーによるバックアップ（515X/33C1のみ）

ACアダプタが手元に無い場合、サブバッテリーによりデータバックアップしながら、バッテリーを交換することが可能です。

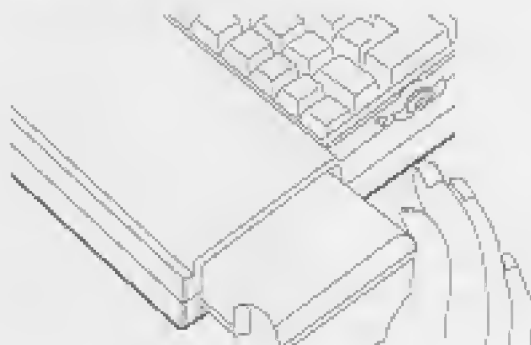
バッテリー残量が少なくなると、警告として電源LEDの発色がオレンジ色に変化し、その後ビープ音を発します。警告状態に気付いたら即座にパワースイッチを押しサスペンド状態にしてください（予めパワーマネージメントメニューにてパワースイッチの設定が必要です）。つづいて素早くバッテリーパックを交換してください。その後、再度パワースイッチを押しレゾームするとサスペンド前の状態に戻ります。

バッテリーパックの交換は以下に行います。

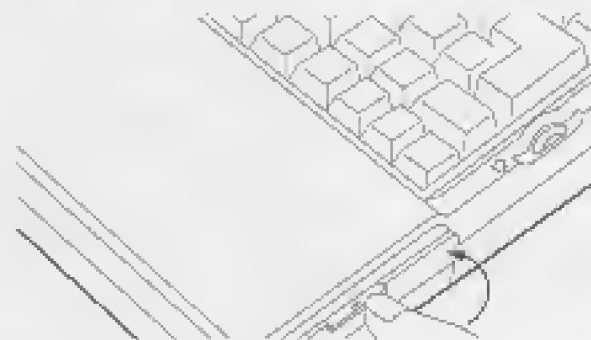
- 1) 本体に向かって右側のバッテリー取り出しボタンを下に押します。



- 2) バッテリーカバーが完全に開いたところで本体を少し右側に傾けバッテリーをしっかりと崩しながら取り外します。



- 3) バッテリーパックに貼られているマークを上にしてバッテリーホルダーの中へ挿入します。緩いのでバッテリーカバーを下図のようにカチッと音の出るまで閉めます。



警告

2次電池によるバックアップにてバッテリーパックの交換を行う場合、速早く交換作業を行ってください。もしも時間が必要以上に経過した場合はメモリ上に保持したデータを失う場合があります。

チャプタ 5 システムコンフィグレーション

ノートブック *WinBook* コンピュータに組み込まれている、システムコンフィグレーションプログラムはその基本的な各種機能を確認したり、設定を変更したりするために使用されます。その中にはメモリの容量、オプションの脱着、CPUのスピードを変更、システムのセキュリティ、パフォーマンスの設定変更などその他の目的にも使用されます。

このチャプタでは

- システムコンフィグレーションプログラムをスタートさせ、使うまでを説明します。

システムコンフィグレーションについて

ノートブック **WinBook** コンピュータにはいくつかの重要な情報をコンピュータがオフの状態でも記憶しています。システムをスタートさせるときいつもこの情報がシステムに読み込まれます。このシステムコンフィグレーションプログラムは以下の項目を行うことができます。

- 日付と時間を変更する。
- 増設したオプションの状態を設定する。または既存のハードウェアの機能を変更する。
- パスワードを設定もしくは変更する。
- バッテリーの使用時間を長くするため、パワーマネージメント (PM) 機能を使う。

また現在のシステムの設定状態を知るためにシステムコンフィグレーションプログラムを使うこともできます。システムコンフィグレーションを終了させるときには設定された内容をシステムに反映させるため、システムはかならずリブートされます。このときはRAMメモリ上に存在していた、すべてのプログラム及びデータは消失しますのでご注意ください。

システムコンフィグレーションをスタートさせる

システムコンフィグレーションプログラムはいつもメモリの中に常駐しています。これをスタートさせるにはDOSプロンプト（つまりアプリケーションプログラムや、Windowsの実行中ではありません。）にて<Ctrl>+<Alt>+<S>を押します。システムコンフィグレーションメニューが以下のように現われます。

このメニューは一番上の行に示されるような各サブメニューにその目的に応じて別れています。

Standard	Preferences	VGA	Memory	PowerMgmt	Defaults	Exit																
SystemSoft 900, Copyright, 1983-1999 SystemSoft Corp.																						
06/08/1999 12:00:00																						
Memory			Peripherals																			
Base Memory 640KB			COM Port A COM1(3F8h)																			
Expanded Memory 7168KB			COM Port D COM2(2F8h)																			
Shadow Memory 128KB			LPT Port Address LPT1(378h)																			
Reserved Memory 256KB			Video Display VGA Display																			
Total Memory 8192KB			Boot Speed Fast Clock																			
			Coprocessor None																			
Drives																						
Diskette Drive A 1.44MB																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Type</th> <th>Cyls</th> <th>Heads</th> <th>SPT</th> <th>Lzone</th> <th>Precomp</th> <th>Size</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Hard Disk 1</td> <td>Auto</td> <td>990</td> <td>10</td> <td>34</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>163</td> </tr> </tbody> </table>								Type	Cyls	Heads	SPT	Lzone	Precomp	Size	Hard Disk 1	Auto	990	10	34	0	0	163
	Type	Cyls	Heads	SPT	Lzone	Precomp	Size															
Hard Disk 1	Auto	990	10	34	0	0	163															
ESC to exit - F10 to save changes																						

注意

それぞれの機種のパッケージによりハードディスクの容量が変更になることがございますので、上記のハードディスク容量等の表記とは異なる場合がございます。

- Standard (スタンダードサブメニュー)
- Preferences (プリファレンスサブメニュー)
- VGA (VGAサブメニュー)
- Memory (メモリサブメニュー)
- Power Management (パワーマネージメントサブメニュー)
- Defaults (デフォルトサブメニュー)
- Exit (終了)

現在の設定の状況が一覧となって画面に数示されています。それぞれのサブメニューはプルダウン式に数示されます。

これらのサブメニューは左右のカーサ移動キーにより、それぞれ選択することができます。設定したい項目のサブメニューに移動し、今度は上下のカーサ移動キーを押すことによって、それぞれのサブメニューの中の各項目を選択します。また、<Esc>を押すことにより、親サブメニューに移動することができます。

1 Standard (スタンダードサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に箱型カーソルを移動させ、<Enter>をタイプします。

1) Date

カレンダーの日付を変更します。表示されているのが現在設定されている日付です。変更の必要があれば、左右カーサ移動キーを使って変更したい月、日、年のところへカーサを移動し、数字キーを使って希望する日付を入力してください。数字は月/日/年の順番に並んでいます。入力が終わったら、<Enter>を押します。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。

2) Time

時計の時刻を変更します。表示されているのが現在設定されている時刻です。変更の必要があれば、左右カーサ移動キーを使って変更したい時、分、秒のところへカーサを移動し、数字キーを使って希望する時刻を入力してください。数字は時/分/秒の順番に並んでいます。入力が終わったら、<Enter>を押します。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。

3) COM Port A

コンピュータの背面にある、シリアルポートコネクタのポート設定を行うことができます。通常はCOM1 (2F8h) に設定しておきます。使用されるアプリケーションプログラムの都合などにより、このポート設定を変更する時には上下カーサ移動キーを使用して、COM1 からCOM4 まで設定を変更することができます。なお、シリアルポートをコンピュータ上から見えない設定にするときにはDisableを選択してください。選択を完了したら、<Enter>を押してください。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。デフォルト設定ではCOM1 になります。

4) COM Port B

MTB (マイクロトラックボール) の使用しているシリアルポートのポート設定を行うことができます。特に必要のない限り、COM2 (2F9h) に設定しておきます。このポート設定を変更する時には上下カーサ移動キーを使用して、COM1 からCOM4 まで設定を変更することができます。なお、外部にマウスを接続する場合はMTB を動作させないようにするため、Disableを選択してください。選択を完了したら、<Enter>を押してください。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。デフォルト設定ではCOM2 になります。

COM Port A と B で同じポート設定を選択することはできません。

5) LPT Port Address

プリンタポートのポート設定を行うことができます。特に必要のない限り、LPT1 (378h) にしておきます。使用するプログラムの都合により、このポート設定を変更する時には上下カーサ移動キーを使用して、LPT1 からLPT3 まで設定を変更することができます。コンピュータからプリンタポートを見えなくしたい場合はDisableを選択してく

ださい。選択を完了したら、<Enter>を押してください。変更せずに元へ戻る時には<Esc>を押します。デフォルト設定ではLPT1になります。

6) Diskette Drive

フロッピーディスクドライブの設定を行います。ノートブックWinBookコンピュータではこの設定は常にDiskette Drive Aは"3、5インチ外付フロッピーディスクドライブユニットの接続状況にて正しい設定を選択しなくてはなりません。接続されていれば目的の容量を選択し、接続されていなければ[None]を選択します。その他の設定を行うとシステムは正しく動作することができませんので注意してください。

7) Hard Disk 1

ハードディスクドライブの設定を行います。ノートブックWinBookコンピュータではこの設定は常にHard Disk 1は"Auto"にしておかなくてはなりません。その他の設定を行うとシステムは正しく動作することができませんので注意ください。"Auto"を選択することでWinBookはHDDの容量を自動的に認識しシステムを立ち上げますがHDDを交換した場合は一度システムコンフィグレーションをスタートさせHDDの容量を確認後終了させる必要があります。デフォルト設定では"Auto"になっています。なお、特別な設定を行いたい場合は上下カーソル移動キーを使用してその設定を選択し、<Enter>を押してください。変更しない場合には<Esc>を押します。

8) Video Display

システムのビデオディスプレイが何であるかを設定します。ノートブックWinBookコンピュータはVGAディスプレイ装置が組み込まれていますので、この設定は常にVGA displayにしておく必要があります。デフォルト設定でVGA displayになります。

2) Preferences (プリファレンスサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーソル移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ<Enter>をタイプします。

1) Quick Boot

リセット時に行われるメモリテストを行わずにブートを行うように設定します。これにより、より早いシステムの立ち上げを行うことができます。チェックマーク"✓"がQuick Bootの表示の左側に表示されている時にこの機能が働きます。ここでもう一度<Enter>を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトではこの機能は禁止されています。

2) NUMLock

システムが立ち上がったときに自動的にNUMLockをオンすることができます。これによりシステムが立ち上がった時にエンベデッドキーボードが数字キー状態になります。チェックマーク"✓"がNum Lockの文字列の右側にあらわれている時に、この機能が働きます。ここでもう一度<Enter>を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトではこの機能は禁止されています。

3) Boot Speed

システムの立ち上がり時のCPUの速度を選択することができます。通常は"Fast Clock"つまり速い状態に設定しておきます。バッテリー使用時間を長くしたいときなどのCPU

の速度を遅くしたい時には「Slow Clock」を選択します。上下カーサ移動キーを押して希望の設定を選択し、<Enter>を押します。設定を行わない場合は<Esc>を押します。

4) Typematic Rate

キーボードのキーを押した時のオートリピートの間隔を設定します。30文字/秒(30CPS)から2文字/秒(2CPS)までを選択できます。好みの設定を行ってください。カーサ上下移動キーを押して選択し、<Enter>を押します。設定を行わない場合は<Esc>を押します。デフォルトでは10CPS(10文字/秒)の速度に設定されています。

5) Typematic Delay

キーボードのキーを押してからオートリピートの始まる迄の遅延時間を設定します。250ミリ秒(250ms)から1000ミリ秒(1000ms)までを選択できます。好みの設定を行ってください。カーサ上下移動キーを押して選択し、<Enter>を押します。設定を行わない場合は<Esc>を押します。デフォルトでは500ms(0.5秒)の時間設定になっています。

6) Boot Password

システムをスタートさせた時に機密保護のためにパスワードを設定することができます。この項目で<Enter>を押すとパスワードを入力するように聞いてきます。4文字から8文字の長さでパスワードを入力します。パスワードに有効なのは英、数字キーだけです。2回同じパスワードを入力することによりそのパスワードが受け入れられます。パスワードは何かにメモするなどして、忘れないようにしてください。次のシステムの立ち上がり時に以下のように画面でシステムはパスワードの入力を要求してきます。正しいパスワードをタイプしてください。間違えた入力を行った場合は3回まで再要求を行います。3回とも間違えた場合にはシステムはリブートします。

Enter your BOOT PASSWORD _____

もし、パスワードを忘れた場合にはソーテックテクニカルセンタまでご連絡ください。

7) SCU Password

システムコンフィグレーションメニューをスタートさせる時にパスワードを設定することができます。この項目で<Enter>を押すとパスワードを入力するように聞いてきます。4文字から8文字の長さでパスワードを入力します。パスワードに有効なのは英、数字キーだけです。2回同じパスワードを入力することにより、そのパスワードが受け入れられます。パスワードは何かにメモするなどして、忘れないようにしてください。次のシステムコンフィグレーションのスタート時に以下の入力画面があらわれますのでここで正しいパスワードをタイプしてください。間違えた入力を行った場合は3回まで再要求を行います。3回とも間違えた場合にはシステムはリブートします。

Enter your SETUP PASSWORD _____

8) First Boot

システムはフロッピーディスク、ハードディスクまたはICカードのいずれからもブートさせることが可能です(ただし基幹メディアが正しくブート出来るように書き込まれていることが

必要です)。通常はドライブAである、フロッピーディスクを読みに行き、もしメディアが装着されていないければハードディスクからブートし、ハードディスクがなければICカードからブートを行います。上下カーサ移動キーを押してどのデバイスからブートを最初に行うかを設定します。選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わない時には<Esc>を押します。デフォルトはドライブAつまりフロッピーディスクから最初にブートを行うようになっています。

3 VGA (VGAサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ<Enter>をタイプします。

1) Display Mode

外部CRTとLCDの表示をどのように行うかを設定します。BOTHを選択するとCRT、LCD同時に表示(サニマルディスプレイ)し、LCDを選択するとLCDにのみ表示します。CRTを選択するとCRTにのみ表示します。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わない時には<Esc>を押してください。デフォルトはLCDになっています。

2) LCD Automap Display

自黒LCDの表示(256色のグラフィックス表示)を見易くする状態を設定します。この項目で<Enter>を押し、上下カーサ移動キーでEnable(オートマップ設定オン)かディisable(オートマップ設定オフ)選択し、<Enter>を押します。デフォルトはEnable(オートマップ設定オン)です。

3) Text Mode

テキストモードの時のLCD画面の表示のしかたを設定します。Normalに設定するとCRTで一般的に表示されるものと同じように表示されます。Reverseに設定するとCRT表示とは逆転した(白/黒逆転つまりネガティブ)表示になります。英語モードのテキスト表示の時にこの設定は有効になり、Reverseで使用するすると画面を見易くすることができます。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わない時には<Esc>を押してください。デフォルトはReverse(CRTと逆転)です。

4) Graphics Mode

グラフィックスモードの時のLCD画面の表示のしかたを設定します。Normalに設定するとCRTで一般的に表示されるものと同じ様に表示されます。Reverseに設定するとCRT表示とは逆転した(白/黒逆転つまりネガティブ)表示になります。日本語MS-DOSの日本語モード、Windowsの画面はすべてグラフィックスモードを使用していますのでこの設定が影響を受けます。上下カーサ移動キーを押して選択を決定したら、<Enter>を押します。設定を行わない時には<Esc>を押してください。デフォルトはNormal(CRTと同じ)です。

4 Memory (メモリサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に反転カーソルを移動させ<Enter>をタイプします。

1) Shadow System BIOS

システムBIOS ROMの内容をRAMにコピーして実行する状態をShadow (シャドウ) といいます。システムの性能をより速くすることができます。チェックマーク"✓"がShadow System BIOSの表示の左側に表示されている時にこの機能が働きます。ここでもう一度<Enter>を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトでこの機能は生かされています。

2) Shadow Video BIOS

ビデオBIOS ROMの内容をRAMにコピーして実行する状態をShadow (シャドウ) といいます。システムの処理スピードをより速くすることができます。チェックマーク"✓"がShadow Video BIOSの表示の左側に表示されている時にこの機能が働きます。ここでもう一度<Enter>を押せばこの機能を解除することができます。デフォルトでこの機能は生かされています。

3) Cache Enable

CPU内部のキャッシュメモリの動作を行うかどうかを設定します。特に必要のない限りこれはCache Enableの状態で使用してください。キャッシュを禁止するとシステムの処理スピードは遅くなります。デフォルトでキャッシュ機能は生かされています。

5 Power Management (パワーマネジメントサブメニュー)

この項目を選択して<Enter>を押すか、上下カーサ移動キーを押すとパワーマネジメントメニュー (PMメニュー) をスタートさせることができます。詳しい内容はこの先の"パワーマネジメントメニューをスタートさせる"の項目をお読みください。PMメニューを終了させるとここに戻ってきます。

6 Defaults (デフォルトサブメニュー)

この項目を選択して<Enter>を押すか、上下カーサ移動キーを押すとシステムコンフィグレーションのデフォルト値を設定することができます。各設定項目の内容は以下のとおりです。

Standard	デフォルト設定値	説明
Date	No effect	デフォルトはありません。
Time	No effect	デフォルトはありません。
COM PORT A	COM13F5B1	シリアルポートはCOM1設定
COM PORT B	COM242F5B1	MTBはCOM2設定
LPT Port Address	1F714375B3	プリンタポートはLPT1設定
Disquette Drive	1.44MB	FDDは1.44MB
Hard Disk 1	Auto	自動設定
Video Display	VGA Display	VGAディスプレイ設定

Preference	デフォルト設定値	説明
Quick Boot	Not Quick Boot	メモリアストを実行します。
NuS Lock	Not NuS Lock	NUMロック オフ
Boot Speed	High	速いスピード
Typematic Rate	10 CPS	10文字/秒
Typematic Delay	600ms	0.5秒
Boot Password	Disabled	なし
SCU Password	Disabled	なし
First Boot	Drive A	フロッピーから最初にブート

VGA	デフォルト設定値	説明
Display Mode	LCD	LCDにのみ表示
LCD Autotemp Display	Enabled	自動LCDの温度を自動調整
Text Mode	Reverse	CRTと逆転（ネガ）
Graphics Mode	Normal	CRTと同じ

Memory	デフォルト設定値	説明
Shadow System BIOS	Enable	シャドウシステムBIOSオン
Shadow Video BIOS	Enable	シャドウビデオBIOSオン
Cache Enable	Enable	CPIキャッシュオン

F Exit: (終了)

この項目を選択して上下カーソル移動キーを押すか、<Enter>を押すと終了サブメニューが表示されます。設定内容を変更していなければ以下のような表示になり、<Esc>を押せばシステムコンフィグレーションメニューを終了します。その他のキーを押せば設定の変更を継続することができます。

<p style="text-align: center;">ESC to exit: now</p> <p style="text-align: center;">Any other key to continue</p>
--

もし設定を変更している場合は以下のような表示になります。設定内容をリデウム電池でバックアップされたメモリに記憶させて終了させるためには<Enter>を押します。システムをメモリに書き込んでからシステムコンフィグレーションメニューを終了させます。設定を変更しないで終了する場合は<Esc>を押してください。変更を継続する場合には何かその他のキーを押してください。

Do you wish to save your changes?
ESC to exit - ENTER to save and exit
Any other key to continue

なお、その他のサブメニューを選択中にESCを押すことで終了サブメニューに移動することが出来ます。またF10を押すことでメモリに設定内容を記憶させることができます。

パワーマネジメントメニューをスタートさせる

パワーマネジメントメニュープログラムはいつもメモリの中に常駐しています。これをスタートさせるには<Fn>+<Esc>を押します。パワーマネジメントメニュー（PMメニュー）が以下のように現われます。システムコンフィグレーションからもスタートできます。

このメニューは一番上の行に示されるような各サブメニューにその目的に応じて別れています。

Controls	System	Device	Defaults	Exit
SystemSoft MAINTILIZER(tm) for 486/90C260 Version Copyright 1990-1993 SystemSoft Corp. All Rights Reserved.				
Controls Power Saving: Always Power Switch: Suspend/Resume Battery Low: Warn Only Video Monitoring: Disable Cover Switch: Suspend		System Options Cpu Idle: Disable Global Standby: Disable Auto Suspend: Disable Alarm Resume: Disable		
Devices Video: Always On HardDisk: Always On				
ESC to exit - F10 to save changes				

- Controls (コントロールサブメニュー)
- System (システムサブメニュー)
- Device (デバイスサブメニュー)
- Defaults (デフォルトサブメニュー)

現在の設定の状況が一覧となって画面に表示されています。それぞれのサブメニューはブルダウ方式に表示されます。

これらのサブメニューは左右のカーサ移動キーにより、それぞれ選択することができます。設定したい項目のサブメニューに移動し、今度は上下のカーサ移動キーを押すことによって、それぞれのサブメニューの中の各項目を選択します。この時<Esc>を押すと終了のサブメニューに移ることができます。

1) Controls (コントロールサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に箱型カーソルを移動させ、<Enter>を押します。

1) Power Savings (パワーセーブ)

システムのパワーセーブ機能をどのような時に有効にするかを設定します。Alwaysを設定すると、バッテリーパック・ACアダプタどちらの電源を使用してもパワーセーブ機能はいつも有効になります。Batteryを設定するとバッテリーパックを使用しているときのみ、パワーセーブ機能が有効になります。Disableを設定すると、パワーセーブ機能は無効になります。上下カーサ移動キーを押して項目を設定したのち、<Enter>を押します。設定を行わない時には<Esc>を押します。デフォルト設定はAlwaysです。

2) Power Switch (電源スイッチ)

電源スイッチの機能を切り替えます。電源スイッチを押すことによりシステムをパワーオン・オフさせるか、サスペンド・レジュームさせるかを選択します。On/Offを選択すると電源スイッチはオン・オフ機能になります。Suspend/Resumeを選択すると電源スイッチはサスペンド・レジューム機能になります。上下カーサ移動キーを押して項目を選択した後、<Enter>を押します。設定を行わない時には<Esc>を押します。デフォルト設定はSuspend/Resume (サスペンド・レジューム) です。

3) Battery Low (バッテリー容量低下)

バッテリー容量が少なくなった時にシステムをどのように動作させるかを選択します。システムは電池容量が少なくなったとき自動的に電源LEDの色を緑からオレンジに変化させ、また消費電力を節約するため、CPUの動作速度を低下させます。このとき、スピーカからは16秒毎にビップ音が発生します。Warn Onlyを選択すると、システムは動作出来る限界点にて電源が切れます。Suspendを選択すると、ある程度余裕を得てサスペンドに入ります。チェックマーク"✓"がBattery Lowの表示の左側に表示されている時はSuspend (サスペンド) になり、チェックマーク"✓"が無い場合はWarn Only (警告のみ) となります。ここでもう一度<Enter>を押せばこの機能を切り替えることができます。デフォルトではWarn Only (警告のみ) となっています。なおメニュー画面のControlsと表示された項目のBattery Lowの項目でもその設定を確認することができます。

警告

ローバッテリー状態でサスペンドに入ったときはそのままの状態からレジュームさせないでください。システムにはレジュームさせるだけの容量は残っていません。必ずACアダプタを装着してから、レジュームさせてください。

4) Alarm Resume (時刻設定によるレジューム)

あらかじめ設定した時刻にシステムをレジュームさせることが可能です。この機能を設定するにはアラーム時刻の設定が必要です。この項目にて<Enter>を押すと以下のような表示が出てきてアラームレジュームを行うかを聞いてきます。設定を行うなら上下カーサ移動キーを押して表示がEnable (動作許可) にして、<Enter>を押します。逆にアラームレジュームを禁止したいならここで表示がDisable (禁止) となるようにして、<Enter>を押します。設定がEnableになっているとチェックマーク"✓"がAlarm Resume表示の左側にあらわれます。デフォルトでこの機能は禁止されています。

Use ARROWS to Enable/Disable Alarm

Enable

このあと以下のようなアラーム時刻設定を行うための表示がでますので希望の時刻に設定を変更します。時・分のカーソルの位置を変更するには左右カーサ移動キーを、それぞれの

値を変更するには上下カーサ移動キーを使用してください。変更が終わったら<Enter>を押してください。変更しない時には<Esc>を押してください。

Use ARROWS to set the Alarm time

04:50

5) Cover Switch (LCD設置を開いた時の設定)

LCDを開いた時のコンピュータの動作を選択することが出来ます。LCDを開いたら自動的にサスペンド状態になる設定と、LCDを開いてもコンピュータはそのまま動作を続ける設定です。通常はサスペンド設定で御使用ください。動作をしつづける様に設定することでLCDを開いて、外部キーボード、外部CD-RWを接続してWinBookをデスクトップコンピュータの様に使うことが出来るようになります。この項目で<Enter>を押すとSuspendまたはLCD On/Off (の選択を上下カーサ移動キーで行う)ことができます。デフォルトはSuspendです。

注意

LCDを開いた状態で使用される時は内部の熱がこもらないように風通の良いたところにおいて御使用ください。内部温度が上昇しすぎた場合には過熱する為、動作が保証できなくなる場合があります。このような時にはシステムをオフして温度が低下するまで御使用にならないでください。

注意

LCDを開いたまま御使用になった後、温度が下がらないうちにLCD装置を開けて使用された場合、LCD上に表示のムラが現れる場合がありますがこれは故障ではありません。しばらくたてばこのムラは無くなります。

5) High Speed Com Port

シリアルポートにて9600BPS以上の高速なモデム等をお使いになる場合又は9600BPS以上の高速なFAX/MODEM I/Cカードをお使いになる場合はこの項目で<Enter>を押し設定を変更してください。チェックマーク"✓"がHigh Speed Com Portの表示の左側にあらわれた場合は9600BPS以上の高速転送が可能です。チェックマークが無い場合は9600BPS以上の高速シリアル転送中においてデータが正しく転送出来ない場合があります。デフォルトでは省電力削減の為チェックマークなしにしています。

7) Beep On/Off (スピーカのオン・オフ)

スピーカから出る音を禁止します。この項目で<Enter>を押すと設定の変更を行うことができます。チェックマーク"✓"がBeep On/Offの表示の左側にあらわれたときはスピーカから音が出る状態(オン)になります。デフォルトでスピーカの音はオンになっています。

8) System (システムサブメニュー)

1) CPU Idle (CPUのアイドル設定)

システムが一定時間稼働していないと判断した場合に自動的にCPUのクロックスピードを遅くするための機能です。この稼働していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で<Enter>を押すと4秒から16秒までの選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはDisableを選択してください。希望の時間設定の位置で<Enter>を押すと設定されます。設定を行わない時には<Esc>を押してください。デフォルトはDisable (禁止) です。

アイドル状態 (クロックの下がった状態) でキーボードを押すなどアクションを起こすとCPUのスピードは自動的にもとの速度に復帰します。

注意

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと稼働状態の検出が正しくできないことがあり、CPUのスピードが落ちてしまいます。このような時にはCPU Idle設定はDisableにしてご使用ください。

2) Global Standby (グローバルスタンバイ)

システムが一定時間稼働していないと判断した場合に自動的にシステムの各製品の電源を落とすしてしまうための機能です。このときシステムは動作を停止し、表示 (LCDとCRT) はしなくなります。

この稼働していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で<Enter>を押すと1分から18分の間での選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはDisableを選択してください。希望の時間設定の位置で<Enter>を押すと設定されます。設定を行わない時には<Esc>を押してください。デフォルトはDisableです。

グローバルスタンバイ状態でキーボードを押すなどアクションを起こすとシステムはグローバルスタンバイに入る以前の状態に復帰します。

注意

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと稼働状態の検出が正しくできないことがあり、グローバルスタンバイになってしまうことがあります。このような時にはGlobal Standby設定はDisableにしてご使用ください。

3) Auto Suspend (オートサスペンド)

システムが一定時間稼働していないと判断した場合に自動的にシステムをサスペンドさせるための機能です。このときシステムの動作は停止し、表示も消えます。前回のグローバルスタンバイより更に消費電力はすくなくなります。

この稼働していない時間リミットの設定をここで行うことができます。この項目で<Enter>を押すと1分から60分の間での選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはDisableを選択してください。希望の時間設定の位置で<Enter>を押すと設定されます。設定を行わない時には<Esc>を押してください。デフォルトはDisableです。

サスペンド状態からの復帰 (レジューム) はキーボードのカーソルキーを押すか、電源スイッチを押すかにより行うことができます (アウェームレジューム、モデム電話呼び出しレジュームも設定により可能です)。レジューム動作には数秒を必要とします。

注意

メモリの中だけで計算を行うようなプログラムを実行している場合に、この設定を行うと稼働状態の検出が正しくできないことがあり、サスペンド状態になってしまうことがあります。このような時にはAuto Suspend設定はDisableにしてご使用ください。

4) Video Monitoring (ビデオモニタリング)

上記3種類のパワーセーブ機能を使用しているときにアプリケーションプログラムによってはこの機能を設定したほうがより効果的にパワーセーブ出来る場合があります。この項目でEnterを押し、チェックマークがVideo Monitoring表示の左側にあらわれるとこの機能が有効化されています。デフォルトでこの機能は禁止されています。

3 Device (デバイスサブメニュー)

このサブメニューには以下の設定項目があります。設定内容の変更を行う上下カーサ移動キーを押して希望の項目に罫型カーソルを移動させ、<Enter>を押します。

1) Video (ビデオ部)

一定時間キーボードからの入力をしていないと判断した場合に自動的にLCD・CRT表示回路の電源をオフにする機能です。このときシステムの表示は消えますが、動作は継続しています。この項目で<Enter>を押すと1分から18分までの時間選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しないときにはAlways Onを選択します。<Enter>を押すと設定されます。デフォルトでAlways Onになっています。

2) Hard disk (ハードディスク)

一定時間キーボードからの入力がないか、ハードディスクの使用がなかったと判断した場合に自動的にHDDの電源をオフにする機能です。このときHDDの電源はオフになりますが他のシステムの動作は継続しています。この項目で<Enter>を押すと1分から18分までの時間選択を上下カーサ移動キーにて行うことができます。この機能を使用しない時にはAlways Onを選択します。<Enter>を押すと設定されます。デフォルトでAlways Onになっています。

4 Defaults (デフォルトサブメニュー)

この項目を選択して<Enter>を押すか、上下カーサ移動キーを押すとパワーマネジメントメニューのデフォルト値を設定することができます。各設定項目の内容は以下のとおりです。

Controls	デフォルト設定値	説明
Power Savings	Always	常時パワーセーブを行う
Power Switch	Suspend - Resume	サスペンド・レジュームを行う
Battery Low	Warn Only	バッテリー残量警告のみ
Alarm Resume	Disabled	時刻設定レジューム禁止
Cover Switch	Suspend - Resume	サスペンド・レジュームを行う
Beeper On/Off	On	スピーカ出力オン

System	デフォルト設定値	説明
CPU Idle	Disabled	CPUのスタンバイ機能禁止

Global Standby	Disabled	システム全体のスタンバイ機能禁止
Auto Suspend	Disabled	自動サスペンド禁止
Video Monitoring	Disabled	ビデオメモリアクセス監視機能禁止

Device	デフォルト設定値	説明
Video	Always On	ビデオ回路のパワーセーブ無し
Hard Disk	Always On	ハードディスクのパワーセーブ無し

5 Exit (終了サブメニュー)

この項目を選択して上下カーサ移動キーを押すが、<Enter>を押すと終了サブメニューが表示されます。設定内容を変更していなければ以下のような表示になり、<Enter>を押せばパワーマネージメントメニューを終了します。その他のキーを押せば設定の変更を継続することができます。

ESC to exit now

Any other key to continue

もし設定を変更している場合は以下のような表示になります。設定内容をリチウム電池でバックアップされたメモリに記憶させて終了させるためには<Enter>を押します。システムをメモリに書き込んでからパワーマネージメントメニューを終了させます。設定を変更しないで終了する場合は<Esc>を押してください。変更を継続する場合には何かその他のキーを押してください。パワーマネージメントメニューを抜け出すと呼び出す前の状態に戻ります。

Do you wish to save your changes?

ESC to exit - ENTER to save and exit

Any other key to continue

なお、その他のサブメニューを選択中に<Esc>を押すことで終了サブメニューに移動することができます。またF10キーを押すことでメモリに設定内容を記憶させることができます。

チャプタ 6 オプションデバイスを装着する

以下の各オプションデバイスがソーアック *WinBook* コンピュータに使用することができます。

- 拡張RAMモジュール
- 外部キーボード・PS/2マウス
- 外置CRTモニタ
- PCMCIAカード

このチャプタでは

上記のオプションデバイスの装着方法について説明しています。

拡張RAMモジュール

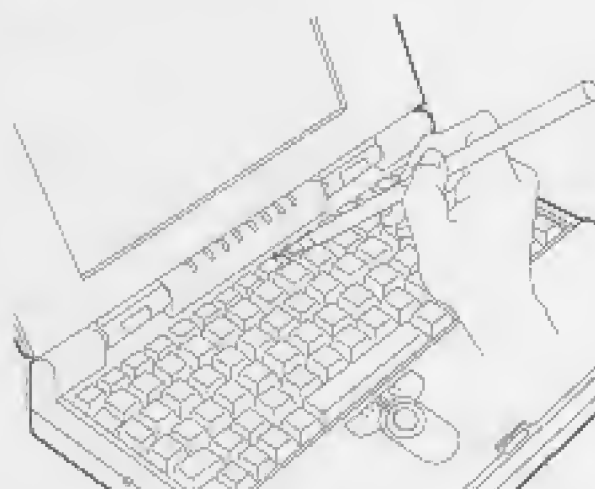
ノートブックWinBookコンピュータは4MBのシステムメモリがコンピュータのマザーボード上に標準装着されて出荷されてきています。この他に4MBのRAMカード又は16MBのRAMカードのいずれかを装着でき、合計8MB又は20MBのメモリを得ることができます。

■拡張RAMモジュールを装着する

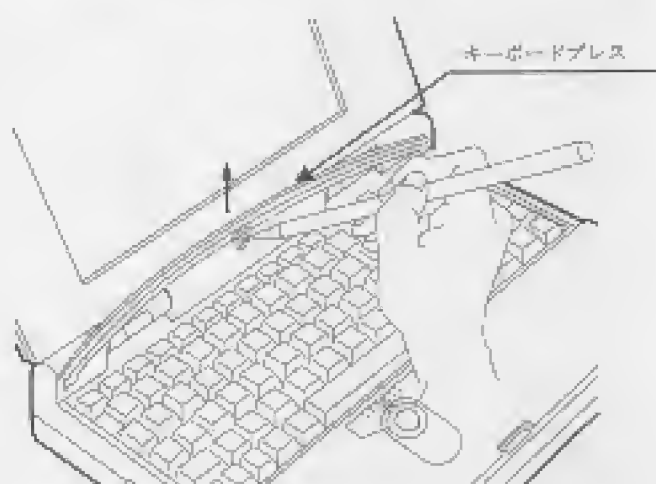
警告

RAMモジュールを装着する前に必ずコンピュータをオフにしてください。またサスペンド状態になってはいけません。P.M.ディスプレイにて電源スイッチの機能をオン・オフに設定し、システムの電線をオフにしてください。

- 1) キーボードプレスを外します。

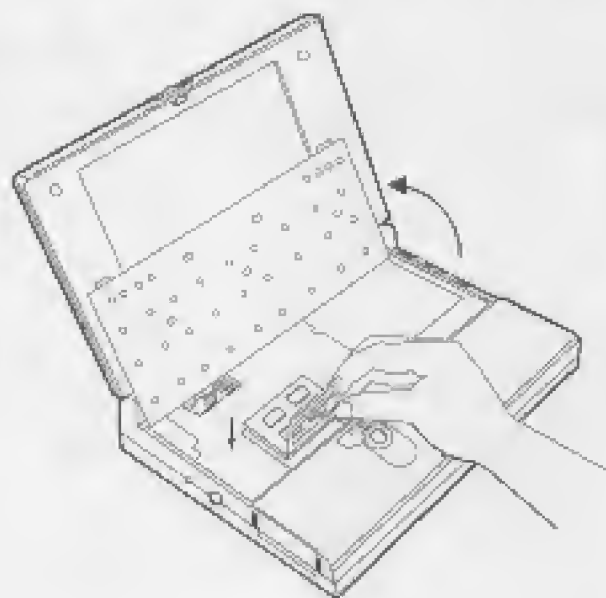


キーボード上部にキーボードモジュールを固定するパーツとしてキーボードプレスがあります。その中央部右寄りに小さなマークがあり、その下部に窪みがあります。その窪みを先の細い棒状のものにより押し上げてください。この場合、LCD画面に傷が付かないように予めLCDカバーを全開(約180°)にしてください。



2) キーボードを上げます。

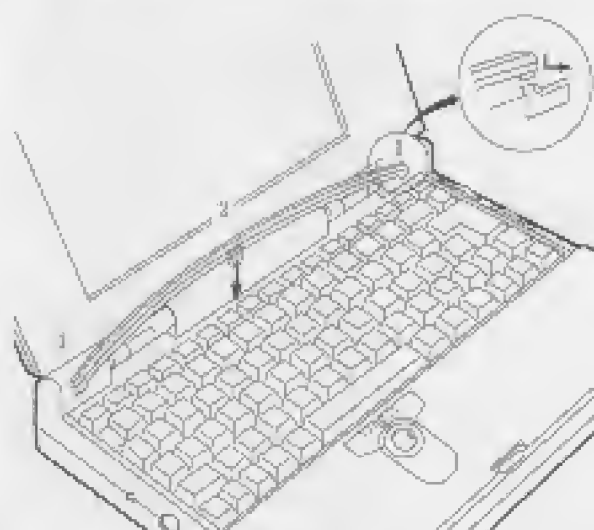
キーボードプレスを外すとキーボードを持ち上げることができます。但し、キーボードは本体に2本のケーブル（キーボード左上）にて接続されていますのでこれを外さないよう注意してください。下図のようにケーブルに負担がかからないようキーボードを上げてください。



3) RAMモジュールを注意深く装着します。

4MB RAMモジュール又は16MB RAMモジュールはを装着できます。

- 4) キーボードを戻しキーボードプレスを両端から差し込み、中央のフックをクリック感のあるまで差し込みます。1、2の順序にて装着してください。



拡張RAMモジュールの装着を行ったあと最初のパワーオンを行ったときにはシステムの以前に記憶していたRAMの容量と現状の容量が一致しないため、画面にエラーメッセージが表示されます。このとき、<Ctrl>+<Alt>+<S>を押してシステムコンフィグレーションプログラムを呼び出してください。システムは自動的に現在のRAM容量を読み込み、設定を行いますので、ここで<F10>を押してその新しいRAM容量設定を記憶させます。詳しい内容はチャプタ4の説明をお読みください。

外部キーボード

ノートブック *WinBook* コンピュータは外部キーボード用のコネクタを装備しています。PS/2 用のキーボード装置を接続して使用することができます。外部キーボードを接続していても内部キーボードは同時に使用することができます。

■外部キーボードを接続する

警告

この先に進む前に必ずコンピュータをオフにしてください。またサスペンド状態になってはいけません。PMメニューにて電源スイッチの機能をオン・オフに設定し、システムの電源をオフにしてください。

コンピュータの背面の外部キーボードコネクタに外部キーボードのケーブルを差し込みます。

コンピュータの電源をオンにしたときに外部キーボードは自動的にコンピュータに認識されます。

この外部キーボードコネクタに別売りのスプリッターを接続すると、PS/2 マウスと PS/2 外部キーボードを同時に接続することが出来るようになります。この場合はスプリッターが必要です。

注意

このコネクタに PS/2 マウスは直接接続できません。
<F> による PM メニューの呼び出し、クロック速度の切り替え、表示の反転などの機能は外部キーボードからは使用できません。

注意

外部キーボードを使用せず PS/2 マウスのみを使用したい場合でも必ずキーボード・マウス接続アダプタが必要になります。
尚、日本 IBM 社製のキーボード・マウス接続アダプタをお使いになる場合には、キーボードとマウスの表示が逆になるため、キーボードの表示側にはマウスをマウスの表示側にはキーボードを接続してください。
(内部仕様が違うため)

外部CRTモニタ

ノートブック**WinBook**コンピュータのLCD画面表示だけでなく、あなたは外部VGAまたはIBM PC/AT用マルチ周波数対応のCRTを接続することにより、CRTにおいても表示を行うことができます。

ノートブック**WinBook**コンピュータに接続、表示出来るCRTはVGA対応のCRTおよび、VGA対応のマルチ周波数CRTです。 CRTのタイプによりWindowsで表示可能なドット数が増えます。 さらに詳しい内容についてはAPPENDIX Bのユーティリティの項目をお読みください。

■CRTモニタを接続する

警告

この先に進む前にも必ずコンピュータをオフにしてください。またサスペンド状態になってはいけません。PMメモリーにて電源スイッチの機能をオン・オフに設定し、システムの電源をオフにしてください。

外部CRTモニタを接続するときは外部CRTモニタのケーブルをコンピュータ背面にある、外部CRTコネクタに接続してください。

システムのシステムコンフィグレーションメニューのなかのVGAのLCD/CRT設定がCRTになっているか、BOTHになっている場合はコンピュータの電源を入れることにより、自動的にCRTに表示を行います。LCD設定になっている場合はシステムコンフィグレーションメニューにてLCD又はBOTHの設定にしてください。詳しい設定の方向はチャプタをお読みください。またWindows上、MSDOSプロンプト上で一時的にLCD/CRTの表示を切り替えるためのユーティリティが用意されています。詳しくはAPPENDIX Bのユーティリティの項目をお読みください。

ICカード (PCMCIAカード)

■PCMCIAについて

PCMCIAは携帯用パソコンなどに装着して利用するICカードを各機器で共通に使用出来る様に定められたICカードの規格です。この規格に準拠したメモリ、ハードディスク、モデム、LANカードなど多くのカードが今後販売される予定になっています。PCMCIAカードにはいくつかの厚みに応じて種類がわかれています。

ソーテックWinBookコンピュータにはPCMCIA タイプ1またはタイプ2を2枚まで装着できます。薄い、タイプ3のカードの場合は下側のスロットに一枚だけ装着できます。

ソーテックWinBookコンピュータにはPCMCIAカードを装着して、使用するためのコントローラ回路と、上記のカードを装着するためのスロット装置があります。

注意

異なる規格のICカードを装着すると、物理的にシステムに損傷を与える恐れがあります。ソーテックの推奨するPCMCIA準拠のカードを必ず御使用ください。

■PCMCIAカードの装着

ソーテックWinBookコンピュータにはPCMCIAカードをシステムの動作中においても装着することができます。またソフトウェアドライバが自動的にそのカードを認識し、装着の直後からその目的に応じて使用することが可能です。

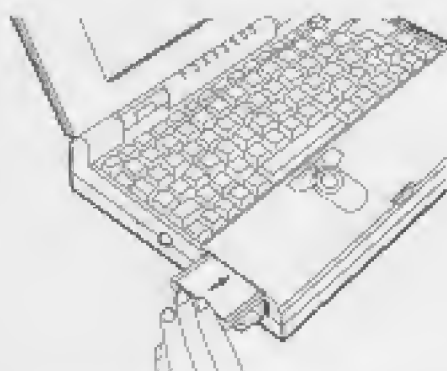


カードスロットカバーを開けます。

希望するスロットにICカードをゆっくり挿入します。上のスロットの場合左側、下のスロットの場合右側のカードイジェクトボタンが飛び出すまで奥に押し込みます。この時のICカードはイジェクトボタンと同じ程度（約8mm程度）外に出ます。

注意

1 Cカードは完全に装着された状態でも、1センチメートル程外に飛び出しています。無理に押し込まないようにしてください。



システムが動作中で、正しくカード用ドライブが組み込まれていればカードを差し込んだ時にビープ音が1回鳴りシステムがカードを認識し、動作の準備を完了したことを示します。（このビープ音はPMメニューにてBEEPをオフに設定していると鳴りません。）

この後は通常通りカードを使用することができます。

■PCMCIAカードの取り外し

1 Cカードを取り出すときにはそれぞれの様きたい1 Cカードの入っているスロットのイジェクトボタンを押し込みます。1 Cカードは1センチメートル程飛び出します。



1 Cカードを抜き取り、保管してください。

システムが動作中、1 Cカードをプログラムが使用中でなければいつでも1 Cカードを抜きとることが可能です。カードを抜き取ると、システムからビープ音が2回鳴りカードがシステムから抜き取られたことを知らせます。（このビープ音はPMメニューにてBEEPをオフに設定していると鳴りません。）

■ソフトウェアドライバインストール

当社推奨のPCMCIAカードを正しく御利用になるためには、正しくカードをサポートするためのプログラム群がインストールされていなくてはなりません。

PCMCIAカードソフトを手軽にインストールするためのソフトウェアが準備されています。システムに添付されているリファレンスディスクに必要なソフトウェアが用意されています。詳しい使用方法についてはAPPENDIX B ユーティリティの項目をお読みください。

注意

PCMCIAカードは、種類により動作しないものもあります。このため、PCMCIAカードをご購入される場合は、必ず本機へ対応しているかをご確認されることをお勧めいたします。

チャプタ 7 故障かな？と思ったら

ソーテック **WinBook** コンピュータをご使用中に「故障？」と思われる症状が起きた場合、このチャプタを御確認ください。もし、以下に1章の症状についての原因と対策を説明しますが、問題が解決できない場合はお買い求めの販売店かソーテックテクニカルサポートセンターにご相談ください。

このチャプタでは

- トラブルとその対策

トラブルとその対策

■電源スイッチを入れても動かない

考えられる原因	対策
ACアダプターが正しく接続されていない。	ACアダプターを正しく接続してください。
バッテリーが充電されていない。	ACアダプターを接続してバッテリーを充電してからご使用ください。
ACアダプターが故障している。	他の電気製品を同じコンセントに接続して、動くかどうか確認してください。もし正常に動けばACアダプターが故障している可能性があります。その場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
本体が故障している。以下、この項については削除します。	お買い求めの販売店にご相談ください。

■画面に何も表示されない、または、見にくい

考えられる原因	対策
電源が入っていない。	前記の対策と同じ確認を行ってください。
コントラスト調整ノブの未調整。	コントラストボリュームを見やすい位置に調整してください。
増光調整ノブの未調整。	バックライトボリュームを見やすい位置に調整してください。
ディスプレイの角度が悪い。	ディスプレイを見やすい角度に調整してください。
ディスプレイにムラがある。	液晶ディスプレイは、周囲の温度等の影響によって、表示が変わる特性があります。ムラが有るのは故障ではありません。
モード設定がCRTで、CRTの電燈がONされていない。	CRTのSWをONしてください。
サスペンド状態になっている。	リブートしてください。

■HDDから立ち上がらない

考えられる原因	対策
フロッピードライブにフロッピーディスクが入っている。(A) NO System File ...)	フロッピーディスクを出して再度電源を入れ直してください。

DOSがHDDにインストールされていない。	HDDにDOSをインストールしてください。
システムコンフィグレーションの設定が正しくない。	システムコンフィグレーションメニューを呼び出し正しい設定を入力してください。

■フロッピーディスクの内容が読み書きできない

考えられる原因	対策
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクを正しくセットし直して、もう一度やり直してください。
3.5インチ外付けFDDが正しく接続されていない。	外部FDDポートに正しく3.5インチ外付けFDDを接続してください。
システムコンフィグレーションが正しく設定されていない。	システムコンフィグレーションのDiskette Driveの値を目的の容量に変更してください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてからご使用ください。
フロッピーディスクの内容が壊れている。	壊れた内容は元には戻せません。バックアップを取ってある場合は、それをご使用ください。
フロッピーディスク装置が故障している。	製品に付属しているフロッピーディスクを動かしてみて、動かない時には、お買い求めの販売店にご相談ください。
フロッピーディスクが書き込み禁止状態になっている。	タイトプロテクトノッチを書き込み可能状態にしてください。
フォーマット形式の異なるフロッピーディスクがセットされている。	正しいフロッピーディスクをセットしてください。
ドライブ指定が合っていない。	ドライブ指定を正しく設定し直してください。
フロッピーディスクの空き容量が充分でない。	不要なファイルを削除するか新しいフロッピーディスクを使用してください。

■押したキーと違う文字が表示される

考えられる原因	対策
CAPSロック、NUMロック、“カナ”キー等のセッティングが間違っている。	各キーを目的のセッティングに合わせてください。

■カーソルが動かず画面が移動する

考えられる原因	対策
SCRLロック状態になっている。	SCRLロックを解除してください。

■いきなり画面が消えた

考えられる原因	対策
電源コンセントまたは、ACアダプタープラグが外れてしまった。	コンセントまたは、プラグを挿入してください。
サスペンドタイムアウトやデバイスタイムアウトが発生した。	レジュームまたは、システムコンフィグレーションを変更してください。
ローバッテリー状態にてサスペンドした。	ACアダプターを接続した後レジュームしてください。

■印刷出来ない

考えられる原因	対策
プリンターの電源が入っていない。	プリンターの電源を入れてください。
接続ケーブルが外れている。	接続ケーブルを正しく接続してください。
印刷用紙が入っていない。	印刷用紙を入れてください。
プリンタの設定が印字可能になっていない。	設定を印字可能にしてください。

■外部マウスが動作しない

考えられる原因	対策
接続ケーブルが外れているまたは、未挿入である。	接続ケーブルを正しく挿入し、もし動かない場合には、再度電源を入れ直して下さい。
電源投入後マウスを接続した。	電源を再投入してください。
専用アダプタを使用していない。(PS/2マウス時)	専用キーボード・マウス接続アダプタをお求めの上使用してください。また各アダプタには外部キーボード専用接続コネクタとPS/2マウス専用接続コネクタがあります。PS/2マウスはマウス専用接続ポートに接続してください。
外部キーボードポートに直接挿入されている。(PS/2マウス時)	専用スプリッターをお求めの上使用してください。
適正なマウスドライバを使用していない。	使用されるマウスに添付されているマウスドライバを正しくインストールしてください。

■ビープ音が鳴っている

考えられる原因	対策
バッテリー容量がなくなっている。	ACアダプターを接続するかまたは、一度電源を切って別の充電済みのバッテリーを装着してください。

ACアダプタープラグが外れかかっている、または外れている。	正しく接続し直してください。
-------------------------------	----------------

■表示される日付や時刻が正しくない

考えられる原因	対策
日付や時刻設定をしていないか、間違った設定になっている。	正しい日付や時刻に設定し直してください。

■充電表示用LEDが点灯しない

考えられる原因	対策
バッテリー端子の接触不良。	バッテリーを一度取り外してから、やわらかい布で端子部分を軽く拭いてください。
ACアダプタが接続されていないか、ACケーブルがコンセントに正しく接続されていない。	ACアダプタを正しく本体に接続するか、ACケーブルを正しくコンセントに差し込んでください。

■サスペンド/レジュームできない

考えられる原因	対策
正しくパワーマネージメントメニューの設定を行っていない。	パワーマネージメントメニューを呼び出し正しく設定を行ってください。
バッテリー容量がなくなった。	ACアダプタまたは、充電済みバッテリーに交換し再度電源を入れ直してください。

注意

HDDを修理する場合はドライブのみの修理若しくは交換となります。記憶されているアプリケーション、データ等の保証、修復はいたしかねますので重要なものについては必ずコピーをとるようお願いいたします。

チャプタ 8 こんなことをしたい

このチャプタでは

- ノートブック *WinBook* コンピュータをご使用になる際の代表的な操作方法を説明しています。

システム全体

■スピーカーから音が出ないようにしたい

- <Fn>+<Esc>を押して、PMメニューを呼び出してください。
- Controlサブメニューの項目で上下カーサ移動キーを押します。
- Beepの項目の左側にはチェックマーク“ ”が表示されているはずですが、
- <Enter>を押します。
- Beepの左側のチェックマーク“ ”は消えます。
- <Esc>を押します。
- <F10>を押します。
- <Esc>を押します。
- <Fn>+<Esc>を押す前の画面に戻り、完了です。

注意

バッテリー残量が少なくなった時の警告音も出なくなります。

■サスペンド・レジューム機能を使いたい

- <Fn>+<Esc>を押して、PMメニューを呼び出してください。
- Controlサブメニューの項目で上下カーサ移動キーを押します。
- Power Switchの項目の右側に“Suspend/Resume”と出ていれば、<Esc>を2回押して終了します。
- Power Switchの項目の右側に“On/Off”と出ているときは<Enter>を押し、“Suspend/Resume”に変更します。
- <Esc>を押します。
- <F10>を押します。
- <Fn>+<Esc>を押す前の画面に戻り、完了です。電源スイッチを押してサスペンドすることができるようになります。

■サスペンド・レジューム機能を使いたくない

- 前項の Power Switch の表示を "On/Off" に設定してください。

■CPUのスピードを遅くしたい (一時的)

- <Fn>+<T>を押してください。CPULEDがオレンジ色に点灯すればCPUの速度は一時的に遅くすることができます。もう一度<Fn>+<T>を押せば元の速度に戻ります。この低速モードの場合は8,25MHzまで減速します。

■CPUのスピードを遅くしたい (スタート時いつも)

- <Ctrl>+<Alt>+<S>を押してシステムコンフィグレーションメニューを呼び出す。
- Preferencesサブメニューの項目で上下カーソル移動キーを押します。
- Boot Speedの項目にて"Slow Clock"にマークされていれば、<Esc>を2回押して終了します。
- Boot Speedの項目にて"Fast Clock"にマークされていれば"Slow Clock"に変更します。
- <Esc>を押します。
- <F10>を押します。

■時刻・日付を修正したい

- DOSコマンドによる方法とシステムコンフィグレーションによる修正方法があります。
- チャプタ1の"コンピュータをスタートさせる"の項目のDOSプロンプトにおける日時・時刻の設定をご覧ください。
- システムコンフィグレーションによる変更方法はチャプタ6の"Date, Time"の項目をご覧ください。

画面関連

■LCD表示の反転をしたい

- キーボードから<Fn>+<D>を押してください。またコンピュータのスタート時いつでも反転させておきたい時にはシステムコンフィグレーションの設定を変更します。チャプタ5のVGAの項目をお読みください。
- CRTとの同時表示をしたい
- リファレンスディスクに入っているユーティリティSIMUL. EXEを使用します。
- ソフトインストール版のモデルをお持ちの方はハードディスクのVGAUTILEディレクトリにSIMUL. EXEが、すでにセットアップされています。
- DOSプロンプトで、SIMUL<Enter>とタイプしてください。
- LCDとCRTは同時表示になります。ただし、CRTが高解像度表示中にはこのプログラムを実行することはできません。
- またシステムコンフィグレーションの設定により、同時表示を行うようにすることも出来ます。チャプタ5のVGAの項目をお読みください。

■CRTとの同時表示をしたくない

- リファレンスディスクに入っているユーティリティLCD. EXEを使用します。
- DOSプロンプトで、LCD<Enter>とタイプします。
- またシステムコンフィグレーションの設定により、同時表示を行うようにすることも出来ます。チャプタ5のVGAの項目をお読みください。

Appendix A システムの仕様

モデル		S135X/S35Li	S135X/S35C
CPU		512KBキャッシュ486SX-33MHz	同左
システムRAM	標準	4MB	同左
	最大	20MB (16MB RAMカード1枚追加時)	同左
BIOS ROM		128KB フラッシュROM	同左
ビデオメモリ		512KB 16ビットパリティバス	同左
ハードディスク		200MB 内蔵式	240MB 内蔵式
フロッピーディスク		3.5インチ高容量ディスクFD 1、44MB/ 1、2MB/TYPE II 標準動作	同左
ビデオ	LCD	640×480ドット モノクローム 最大150度開 0.3mmピッチ 2.4インチ 冷却装置バックライト	640×480ドット DSTNカラー 最大256色 0.3mmピッチ2GB-組 2.4インチ 冷却装置バックライト
	最大	最大1024×768ドット16色1インチモニター (LCDと同解像度にて同時表示可能、640×480ドット時のみ)	同左
インターフェース		シリアルポート パラレルポート 外部CRTポート 外部キーボードポート 外部FDDポート 15カードスロット	同左
キーボード	仕様	2、5mmキーストローク ノンブレン型 (ファンクションキーのみ1、6mm)	同左
	キー数	84キー (100キーエミュレーション)	同左
マウス		1.6mmピッチトラックボール内蔵	同左
睡眠保護機能		バスローフ脱着による保護機能	同左
パワーセーブ機能		CPUクロックダウン ビデオメモリ等 ハードディスク停止 サスペンド-レジューム機能 などをハードウェアにて選択可能	同左
カレンダー、時計、検印		システム電池によるバックアップ 5年保証	同左
電源	ACアダプタ	入力100V-240V50-60ヘルツ 出力19V1000mA	同左
	電池	リチウム水素電池 1.2V1100mAh	同左
	サブバッテリー	—	リチウム水素電池 1.2V300mAh
消費電力		26.0 (W) ± 3.8 (CD) ± 3.6 (H)	24.4 (W) ± 3.9 (CD) ± 3.8 (H)
重量		1.05Kg	1.3Kg

Appendix B ユーティリティとドライバソフト

添付のリファレンスディスクにはシステムをより快適に使用するためのいくつかのプログラムファイルが書き込まれています。ここではそのプログラムやドライバについての使い方を説明しています。

ディスプレイ関連

■表示切り替えプログラム

これらのユーティリティは表示モードを簡単に切り替える為のもので、DOSプロンプトもしくはWindowsのプログラム上で動きます。

DOSプロンプトで動かす時は次のいずれかを入力して下さい。

- ・ CRT [`<Enter>`]
- ・ PANEL [`<Enter>`]
- ・ SIMUL [`<Enter>`]

CRTユーティリティは表示を外部CRTに切り替えます。

Panelはその時の表示モードが840X480以下の時にLCD表示に切り替えます。

Simulはその時の表示モードが840X480以下の時にLCDと外部CRTの両方で同時表示するように切り替えます。

■Windowsディスプレイドライバのインストール

Windowsディスプレイドライバを完全にインストールしたい場合は下記に示す手順でインストールしてください。

- 1 Windowsを立ちあげます。
- 2 ドライブAにリファレンスディスクをセットします。
- 3 プログラムマネージャ<アイコン (F)><ファイル名を指定して実行 (R)>を選択します。
- 4 <コマンドライン (C)>のテキストボックスにA:VGA1NSTとタイプします。
<OK>を選択すると自動的にインストールが終了します。

ICカード関連

■CardSoftインストール

ICカードを快適に使用していただくためにカードソフトを用意しています。**WinBook**コンピュータ出荷時カードソフトがインストールされていますがICカードを動作可能にするためにはCONFIG.SYS内のデバイスドライバ文を変更する必要があります。

CONFIG.SYSの内容はMS-DOSのEDITコマンド等にてご確認でき又変更することも可能です。EDITコマンドはFDSYSのディレクトリ内にあります。ルートディレクトリから操作される場合には下記のように入力してください。

注意

CONFIG.SYSを変更する場合は、その前に必ずバックアップファイル (CONFIG.OLD等) をお作り下さい。カードソフトの起動時にWARNINGメッセージが4行表示されますが、これは異常ではありません。そのままお使いください。

C:\> CD FDS <Enter>

C:\> DOSWEDIT <ENTER>

CONFIG.SYS内の文を下記の通り変更してください。

出荷時の設定

```
DEVICE=C:\VDOS\EMM386.EXE
rem DEVICE=C:\VCARD\SOFT\SSCIRRUS.EXE
rem DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VCB.XXX
rem DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VCBALLOC.EXE C:\VCARD\SOFT\VCBALLOC.INI
rem DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VCATDRV.EXE
rem DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VSRANDRV.EXE
rem DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VCARDID.EXE
```

リマータを外した後の設定

```
DEVICE=C:\VDOS\EMM386.EXE X=C800-CFFF
DEVICE=C:\VCARD\SOFT\SSCIRRUS.EXE
DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VCB.EXE
DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VCBALLOC.EXE C:\VCARD\SOFT\VCBALLOC.INI
DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VCATDRV.EXE
DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VSRANDRV.EXE
DEVICE=C:\VCARD\SOFT\VCARDID.EXE
```

又、新たにデバイスドライバをインストールしたい場合はリファレンスディスクをご活用下さい。詳しいインストールの方法、使い方についてはリファレンスディスクのREADME.TXTをEDITコマンド等を使ってご覧ください。

パワーセーブ関連

■POWER. EXE

POWER. EXEはAPM (Advanced Power Management) 仕様に準拠したデバイスドライバです。APMとはコンピュータの性能を落とさずに消費電力を低下させるために取り決められた規格です。ソーテックWinBookコンピュータはPOWER. EXEをサポートしています。ソフトウェアインストールバージョンには既に組み込まれていますが、MS-DOSの別売品をお使いになる場合にも必ずPOWER. EXEをCONFIG. SYSに組み込むことをお奨めいたします。

- MS-DOSをインストールしてください。

注意

CONFIG. SYSを変更する場合は、その前に必ずバックアップファイル (CONFIG. OLD等) をお作り下さい。

- CONFIG. SYSファイルの中に以下の一行を加えます。"DOS?"と書いてあるのはPOWER. EXEをコピーしたサブディレクトリパスを指定するためのものです。コピーしたパスをここで指定してください。

DEVICE=C:\DOS\POWER. EXE

- <Ctrl>+<Alt>+を押して、MS-DOSの再起動を行い、この組み込みを有効にします。

■APM

APM (アドバンスド パワー マネージメント) はコンピュータの性能を落とさずに消費電力を低下させるために取り決められた規格です。ソーテックWinBookコンピュータはAPMをサポートしています。Windowsをインストールされる場合には"カスタムセットアップでインストールする"を選択し、システム情報の"コンピュータ:"の項目が"MS-DOS with APM"になるように選択してください。単なる"MS-DOS"設定より、アイドル時の大幅な消費電力の低下を実現することができます。なお、ソフトウェアインストールバージョンのソーテックWinBookコンピュータはすでにWindowsは"MS-DOS with APM"に設定されています。

■PMEXT. SYS

このプログラムはソーテックWinBookコンピュータをご使用中にサスペンド/ジョームを行った時に発生する時刻のずれを修正するための専用デバイスドライバです。

ソフトウェアインストールバージョンのノートブック *WinBook* コンピュータをお求めの場合はシステムには既に組み込まれていますが、既にMS-DOSをお持ちの場合はインストールを行った後に、このデバイスドライバを以下のように組み込んでください。

- MS-DOSをインストールしてください。
- リファレンスディスクをフロッピーディスクに装着し、PMEXT、SYSファイルをハードディスクにコピーしてください。

注意

CONFIG、SYSを変更する場合は、その前に必ずバックアップファイル (CONFIG、OLD等) をお作り下さい。

- DOSのEDITコマンド等にてCONFIG、SYSファイルの中に以下の一行を加えます。"PATH%"と書いてあるのはPMEXT、SYSをコピーしたサブディレクトリパスを指定するためのものです。コピーしたパスをここに指定してください。

DEVICE=C:\%PATH%\PMEXT.SYS

- <Ctrl>+<Alt>+を押して、MS-DOSの再起読み込みを行い、この組み込みを有効にします。

Appendix C システムメモリマップ

FFFFFFFFH FFE00000H	ROMイメージ及びシステムBIOS・PMプログラム領域		
FFDFFFFFFH 01500000H	予約領域		
015FFFFFFH 00C00000H	予約領域	16MB拡張RAMモジュール	
00BFFFFFFH 00800000H			
007FFFFFFH 00300000H			
002FFFFFFH 00100000H	4MB拡張RAMモジュール		
000FFFFFFH 000F8000H	標準組み込み RAM		
000EFFFFFFH 000F0000H	システムBIOS		
000E7FFFFFFH 000F0000H	PMプログラム領域		
000EFFFFFFH 000E8000H	PMプログラムデータ領域		
000E7FFFFFFH 000E0000H	VGA BIOS ROMイメージ		
000DFFFFFFH 000C8000H	予約エリア		
000C7FFFFFFH 000C0000H	VGA BIOS		
0000BFFFFFFH 0000A0000H	VGAディスプレイメモリ		
00009FFFFFFH	メインメモリ 640Kバイト		
000000000H			

Appendix D システム I/O マップ

03F8H~03FFH	COM1 シリアルポート (シリアルポート)
03F0H~03F7H	フロッピーディスクコントローラ
03E2H~03E7H	予約領域
03E0H~03E1H	3C カードコントローラ
03C0H~03DFH	ディスプレイコントローラ
03B0H~03BFH	LPT2 プリンタポート
03B0H~03AFH	予約領域
0370H~037FH	LPT1 プリンタポート (プリンタポート)
0300H~036FH	予約領域
02F0H~02FFH	COM2 シリアルポート (MTB)
0280H~02EFH	予約領域
0270H~027FH	LPT2 プリンタポート
0200H~026FH	予約領域
01F0H~01FFH	ハードディスク
0100H~01EFH	予約領域
00F0H~00FFH	数値演算プロセッサ用予約領域
00E0H~00EFH	予約領域
00C0H~00DFH	DMA コントローラ 2
00A0H~00BFH	割り込みコントローラ 2
0080H~009FH	DMA ベージレジスタ
0070H~007FH	リアルタイムクロック・カレンダー・その他
0060H~006FH	キーボードコントローラ
0050H~005FH	予約領域
0040H~004FH	タイマーコントローラ
0030H~003FH	予約領域
0020H~002FH	割り込みコントローラ 1
0010H~001FH	予約領域
0000H~000FH	DMA コントローラ 1

() 内はデフォルト設定の割り当てを示します。

索引

かな

あ

アルファベット大文字, 52, 54
アルファベット小文字, 52, 53

い

イジェクトボタン, 36

う

ウインドウズ, 5

え

英記号, 53
<英数>, 51
英数字, 41
英数等の入力モード, 51
エスケープキー, 46
エンベデッドキーを使う, 47

お

オプションデバイスを装着する, 77

か

カーサキー, 41
カーソル, 30
外觀説明, 16
外部CRTポート, 21
外部CRTモニタ, 82
外部FDDポート, 22
外部キーボード, 81
外部キーボードポート, 22, 89
外部マウス, 69
書き込み禁止ノッチ, 37
拡張RAMモジュール, 76
拡張日本語キーボード, 40
カタカナ, 52, 53
カタカナ等の入力モード, 51
かな記号, 52, 54
カナ数字キー, 41
かな入力のしかた, 51
かな入力方式とローマ字入力方式, 51
かな入力モード, 51
カレンダー, 23, 30
漢字を入力する, 54

き

キーボード, 40
キーボード・マウスアダプタ, 22
キーボードプレス, 78
輝度調整ノブ, 16

く

クリーニングディスク, 7
クロックスピード, 24

こ

高解像度表示, 5
コントラスト調整ノブ, 16
コンピュータの開け閉め, 14

さ

サスペンド, 15, 58, 90, 92

し

システムI/Oマップ, 102
システムコンフィグレーション, 23,
61
システムコンフィグレーションプログ
ラム, 63, 71
システムの仕様, 95
システムフアンクションキー (システ
ム制御キー), 48
システムメモリマップ, 101
充電LED, 17, 57
充電モード, 57
周辺機器, 19
周辺装置への接続, 21
終了, 63
消費電力の低減 (パワーセーブ), 55
シリアルポート, 21

す

数字, 52, 53
スタンダードサブメニュー, 63
ステータスLED, 17
スピーカ, 92

せ

全角入力モード, 51

そ

ソフトウェア, 6
ソフトウェアドライバインストール,
85

索引

て

データ書き込みを禁止, 37
ディスクドライブ, 33
テクニカルサポート, 12
テックサポートFAXフォーム, 4
デフォルトサブメニュー, 63
電源, 23, 55
電源LED, 18
電源スイッチ, 18, 87
電力を節約する, 58

と

同時表示, 94
時計, 23, 30
ドライバソフト, 96
取り扱い上の注意, 6

に

日本語入力, 43

は

ハードウェア, 4
ハードディスク, 4, 33
パスワードを設定, 62
パスワードを設定する, 66
発光ダイオード, 17
バッテリーを交換する, 59
バッテリーで動作させる, 57
バッテリー取り出しボタン, 59
バッテリーの放電, 58
バッテリーパック, 4, 7, 8, 28, 57
バッテリーホルダー, 60
パワーを節約, 58
パワーマネージメントサブメニュー,
63, 68
半角入力モード, 51

ひ

標準機能, 3
<ひらがな>, 50
ひらがな, 52, 53
ひらがな等の入力モード, 50

ふ

ファンクションキー, 41, 46
フット, 20
プリファレンスサブメニュー, 63
プリンタポート, 21
フロッピーディスク, 33, 35, 38

ほ

ボール, 27
ボールカバー, 27
ポインタ, 25

ま

マイクロコンピュータ, 24
マイクロトラックボール, 18, 25
マイクロトラックボールのクリーニング,
26

み

右コントロールキー, 45

め

メモリサブメニュー, 63

も

文字入力キー, 41

ゆ

ユーティリティ, 96

り

リセット, 32
リセットスイッチ, 19
リチウム電池, 23
リチウムバッテリー, 7
リポート, 62
リファレンスディスク, 96

れ

レジューム, 58, 90, 92

ろ

ローバッテリー, 58
ローマ字入力のしかた, 53
ローマ字入力モード, 51

英字

A

ACアダプタ, 4, 6, 28
ACコード, 28

索引

Alarm Resume (時刻設定によるレジューム), 72
<Alt>+<ローマ字>, 51
APM, 99
Auto Suspend (オートサスペンド), 74

B

Backspace (バックスペース) キー, 44
Battery Low (バッテリー容量低下), 72
Beep On/Off (スピーカのオン・オフ), 73, 92
Boot Password, 66
Boot Speed, 65
BOTH, 82

C

Cache Enable, 68
CAPSロック, 18, 45
CardSoft, 98
COM Port A, 64
COM Port B, 26
COM Port B, 64
CONFIG. SYS, 39
Controls (コントロールサブメニュー), 71
Cover Switch (LCD装置を閉じた時の設定), 73
CPU, 18
CPU Idle (CPUのアイドル設定), 74
CRT, 94
<Ctrl>+<Alt>+, 32
<Ctrl>+<Alt>+<S>, 48, 63, 93

D

DATE, 30
Date, 64
DCINコネクタ, 28
DC入力, 19
Defaults (デフォルトサブメニュー), 68
Defaults (デフォルトサブメニュー), 75
Defaults, 63
 (デリート) キー, 44
Device (デバイスサブメニュー), 75
Diskette Drive, 65
Display Mode, 67
DOSプロンプト, 10, 30, 39

E

<Enter> (エンター) キー, 43
Exit, 63, 69, 76

F

F1, ..., F12, 41
FDDアクセス, 18
FDDユニットの接続方法, 35
First Boot, 66
<Fn>+<D>, 49, 94
<Fn>+<Esc>, 48, 71
<Fn>+<T>, 24, 49, 93

G

Global Standby (グローバルスタンバイ), 74
Graphics Mode, 67

H

Hard Disk 1, 65
Hard disk (ハードディスク部), 76
HDD, 67
HDDアクセス, 18

I

ICカード (PCMCIAカード), 83
ICカード, 19, 98
<Insert>キー, 46

L

LCD Automap Display, 67
LCD, EXE, 94
LCD, 7
LCD画面, 16
LCD/CRT設定, 52
LCD画面白黒反転, 94
LED, 17
LPT Port Address, 64

M

Memory (メモリサブメニュー), 67
Memory, 63
MS-DOS, 5, 10

索引

N

NUMロック, 18, 45, 65

P

PCMCIAカードの装着, 83
PCMCIAカードの取り外し, 84
PMEXT. SYS, 99
Power Management, 63
Power Savings (パワーセーブ), 71, 99
Power Switch (電源スイッチ), 72
Preferences (プリファレンスサブメニュー), 65
Preferences, 63
PS/2キーボード, 22
PS/2マウス, 22, 81
PS/2外部キーボード, 81

Q

Quick Boot, 65

S

SCRLOCK, 18, 46
Shadow System BIOS, 67
Shadow Video BIOS, 68
<Shift>+<カタカナ>, 51, 52
Standard (スタンダードサブメニュー), 64
Standard, 63
System (システムサブメニュー), 73

T

Text Mode, 67
TIME, 30
Time, 64
Typematic Delay, 66
Typematic Rate, 66

V

VGA (VGAサブメニュー), 67
VGA, 63
VGAサブメニュー, 63
Video Display, 65

Video Monitoring (ビデオモニタリング), 75
Video (ビデオ部), 75

W

Warn Only (警告のみ), 72
Windows, 5, 10

数字

1024FD, 39
106キー, 40
2.5インチ, 33
3.5インチ, 33
3モード, 35
3モードFDDの使用方法, 39
486, 3

SOTEC